

# 緊急時対応マニュアル

# OUTLANDER PHEV

2013~21 年型



Version:1.0

# はじめに

本書は、アウトランダーPHEV の乗員救助ならびに事故処理等を行う際の注意事項を記載しています。

アウトランダーPHEV は高い電圧のバッテリーを搭載したプラグインハイブリッド車であり作業中の取扱いを誤ると、感電など重大な傷害を受けるおそれがあります。

安全に作業していただくために、事前に本書をよくお読みいただき、注意事項を遵守してください。

## 安全に関する表示

運転者や他の人が傷害を受けるおそれがあることと、その回避方法を次の表記で記載しています。重要な事項ですので必ず読んでお守りください。



### 警告

記載事項を守らないと、死亡や重大な傷害につながるおそれがあること。



### 注意

記載事項を守らないと、傷害や事故につながるおそれがあること。



### アドバイス




守っていただきたいこと。知っておくと便利なこと。

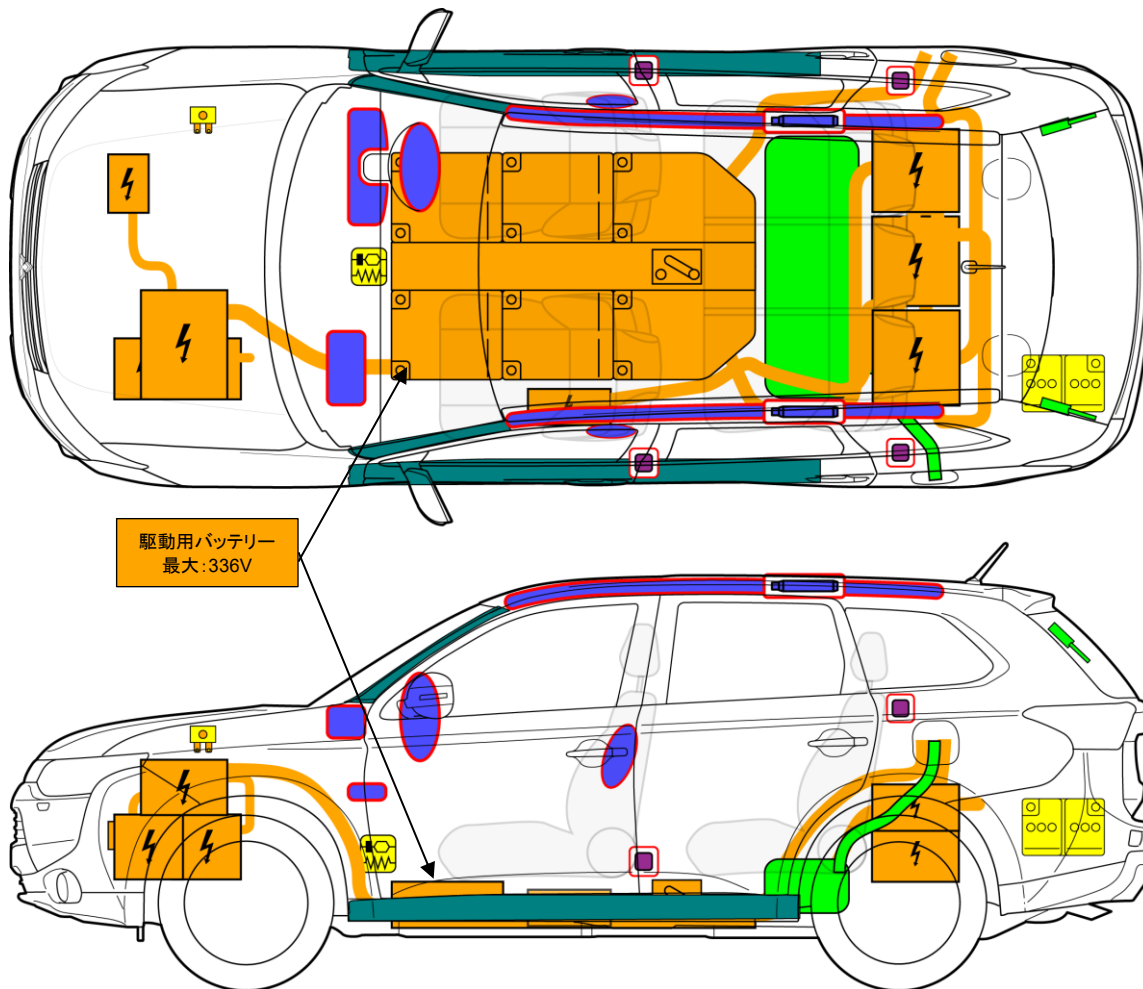
装備仕様の変更等により、本書の内容が被救助車両と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

## 目次

0.クイックガイド	P.3
1.車両の特徴	P.5
2.電源の切り換え・車両支持箇所	P.11
3.安全に作業を行うために	P.14
4.乗員救助	P.19
5.使用されている液体類・駆動用バッテリーについて	P.23
6.車両が火災の場合	P.24
7.車両が水没している場合	P.25
8.車両の運搬及びけん引	P.26
9.補足情報	P.30
10.使用ピクトグラムの説明	P.40

# 0. クイックガイド

 <p>MITSUBISHI MOTORS</p>	<p>OUTLANDER PHEV          ボディー形状: ステーションワゴン          形式: GG2W 年式: 2012 - 2015</p>		
--	--	---	---



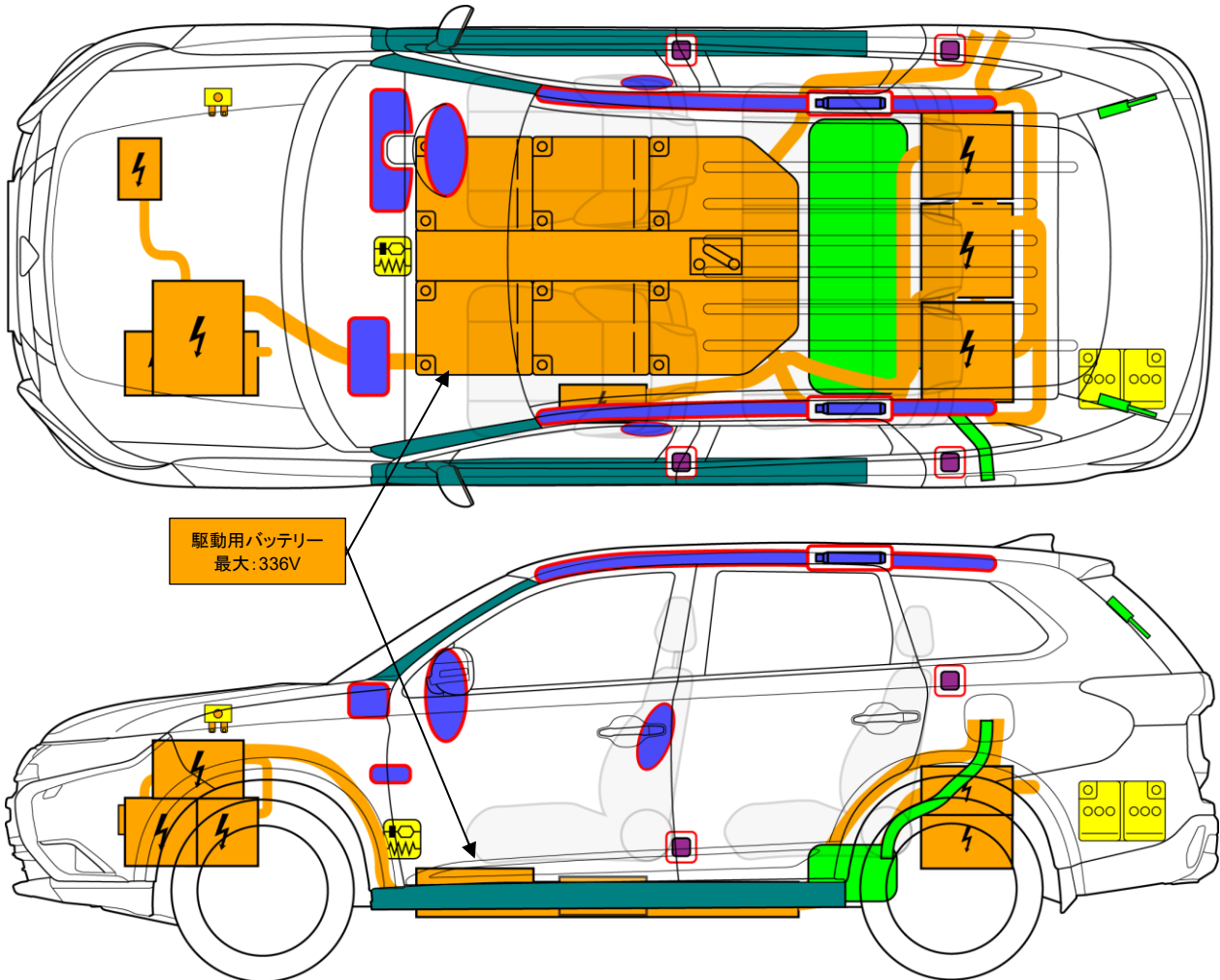
	エアバッグ		エアバッグインフレーター		シートベルトプリテンショナー		SRSコントロールユニット		歩行者保護システム
	転倒防止システム		ガストラット/プリロードスプリング		超高張力鋼板部		注意ゾーン		
	低電圧バッテリー		低電圧コンデンサー		フューエルタンク		ガスタンク		セーフティバルブ
	高電圧バッテリー		高電圧ケーブル/高電圧部品		サービスプラグ		高電圧ヒューズ		高電圧コンデンサー

※車両の最大装備を図で示しています。

ID No.	Version No.	Version Date.	Page
GGW-JNRS-01	01	02/2020	1



OUTLANDER PHEV  
 ボディー形状: ステーションワゴン  
 形式: GG2W, GG3W 年式: 2015 – 2021



	エアバッグ		エアバッグインフレーター		シートベルトプリテンショナー		SRSコントロールユニット		歩行者保護システム
	転倒防止システム		ガストラット/プリロードスプリング		超高張力鋼板部		注意ゾーン		
	低電圧バッテリー		低電圧コンデンサー		フューエルタンク		ガスタンク		セーフティバルブ
	高電圧バッテリー		高電圧ケーブル/高電圧部品		サービスプラグ		高電圧ヒューズ		高電圧コンデンサー

※車両の最大装備を図で示しています。

ID No.	Version No.	Version Date.	Page
GGW-JNRS-02	01	02/2020	1

# 1. 車両の特徴

## 1. 車両外観の特徴

アウトランダーPHEVは、アウトランダー(ガソリン車)と同じ車体を使用しており、外観が類似しています。よって、アウトランダーPHEVの特徴を以下に示しますので1つでも該当するものがあれば、必ず絶縁保護具を着用し作業を実施してください。

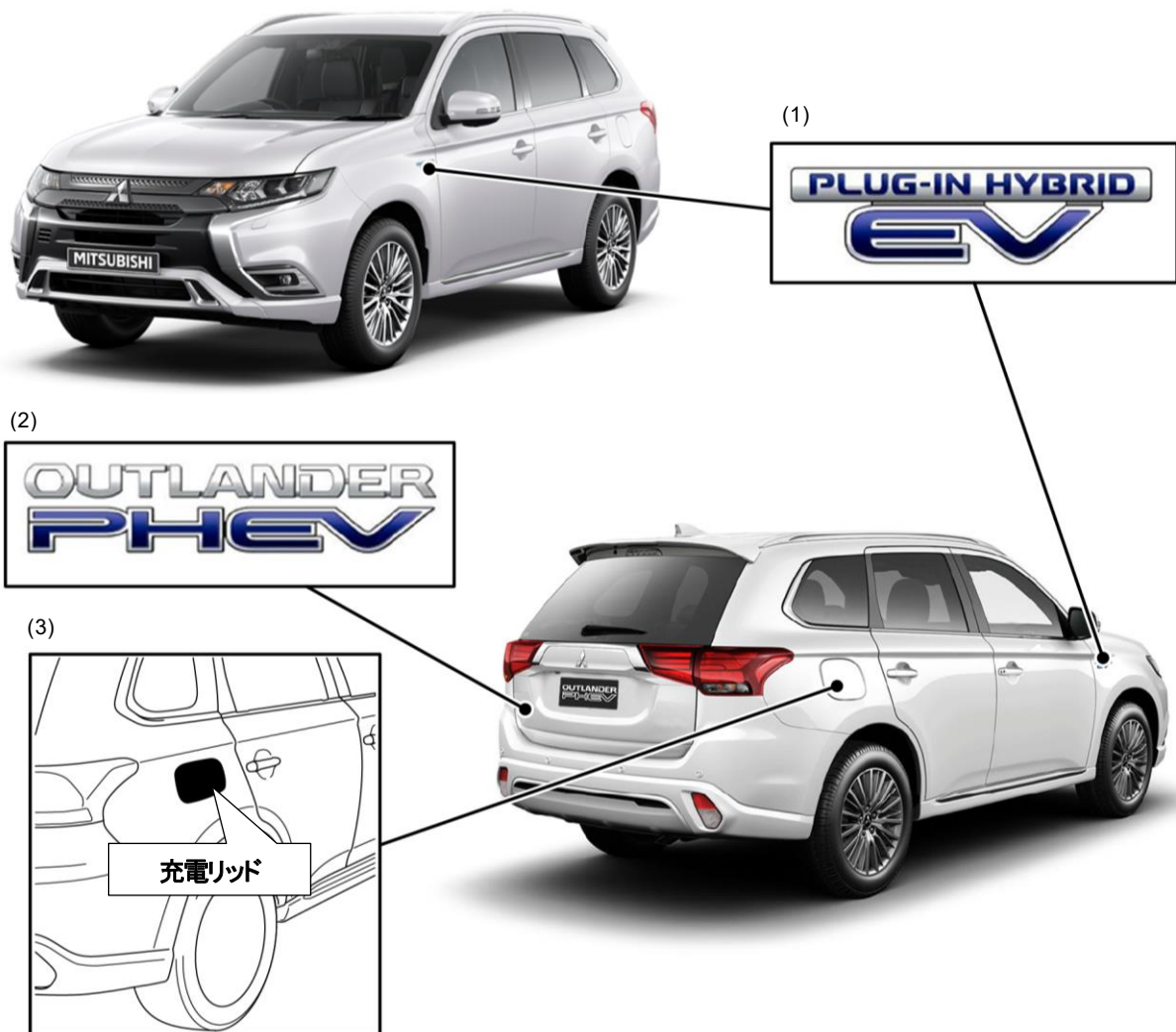
### ⚠ 警告

- ・車両がアウトランダーPHEVでないことが確認できるまで、車体に触れる場合や触れる可能性のある場合は必ず絶縁保護具(絶縁手袋・絶縁ゴム底安全靴)[耐電圧 500V 以上]を着用してください。
- ・エンジン音がしていても、アウトランダー(ガソリン車)とは限りません。

### (1) アウトランダーPHEVの特徴

- ・PHEV(PLUG-IN HYBRID EV) ロゴマーク
  - ・充電リッド
  - ・車台番号(型式)
  - ・パワードライブユニット(PDU)カバー
- などから特徴を判断出来ます。  
なお PHEV (PLUG-IN HYBRID EV) ロゴマークはフェンダーパネルの左右及び、テールゲートに装備されています。

### (2) 外観の特徴



- (1) 左右フロントフェンダーパネルの「PLUG-IN HYBRID EV」ロゴマーク
- (2) テールゲートの「OUTLANDER PHEV」ロゴマーク
- (3) 右リヤパネル部の「充電リッド」

### 📖 アドバイス

PHEV 車以外は充電リッドはありません。左リヤパネル部は「給油口」です。

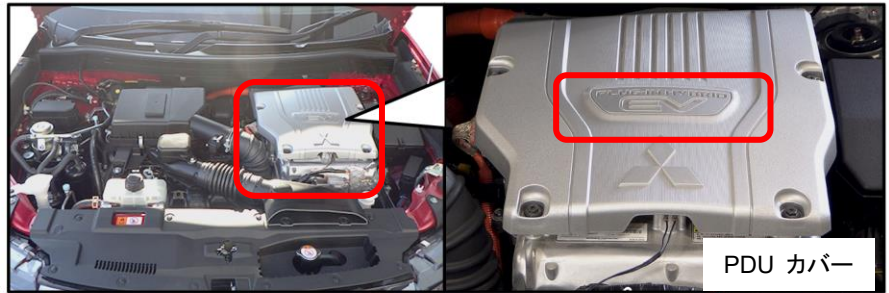


### (3) その他の特徴

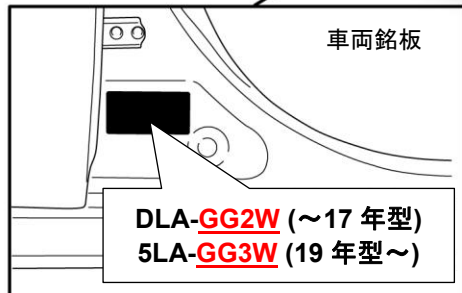
(1)



(3)



(2)

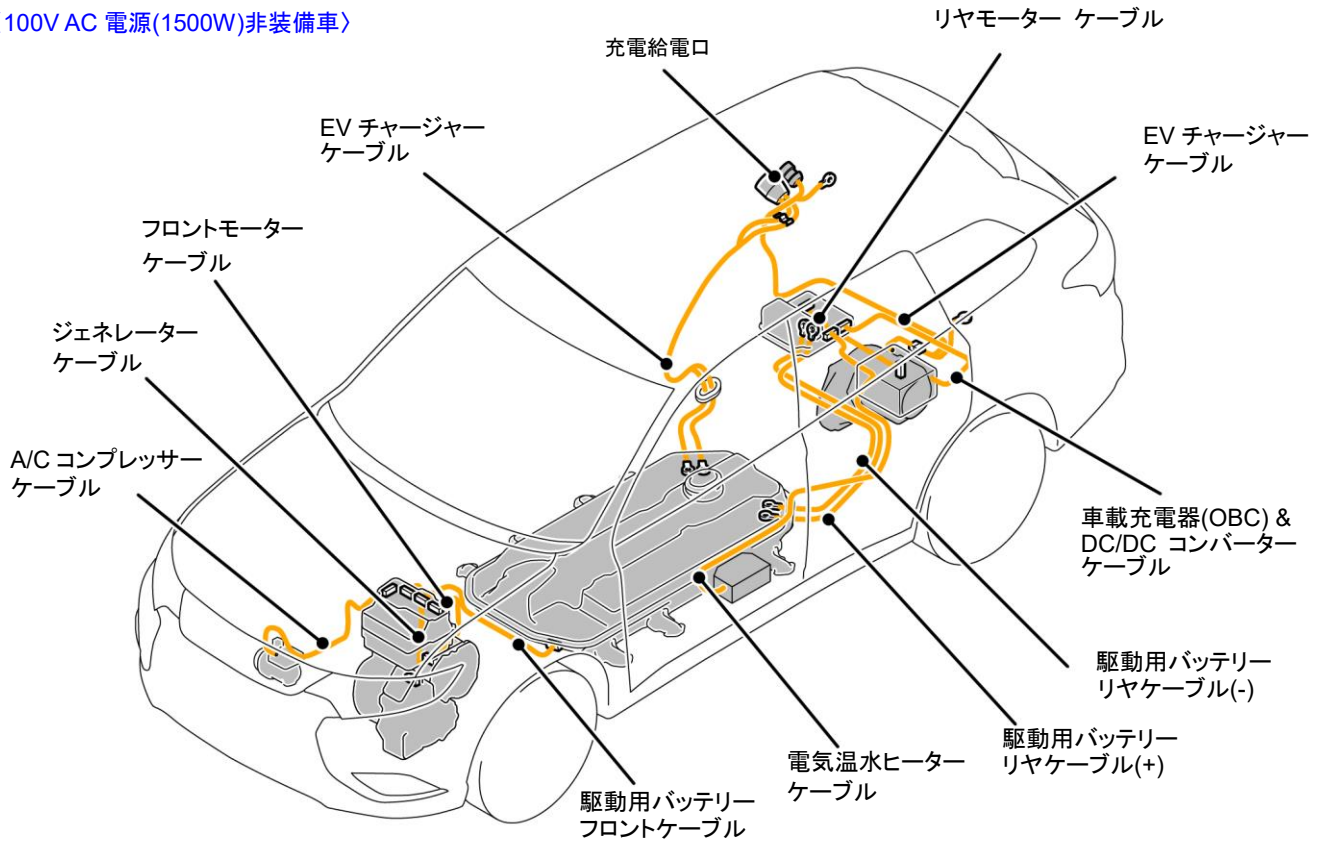


- (1) エンジンルーム内に打刻の車台番号
- (2) 車両銘板に打刻の車両型式番号
- (3) エンジンルーム内の「PDU カバー」に「PLUG-IN HYBRID EV」ロゴマーク

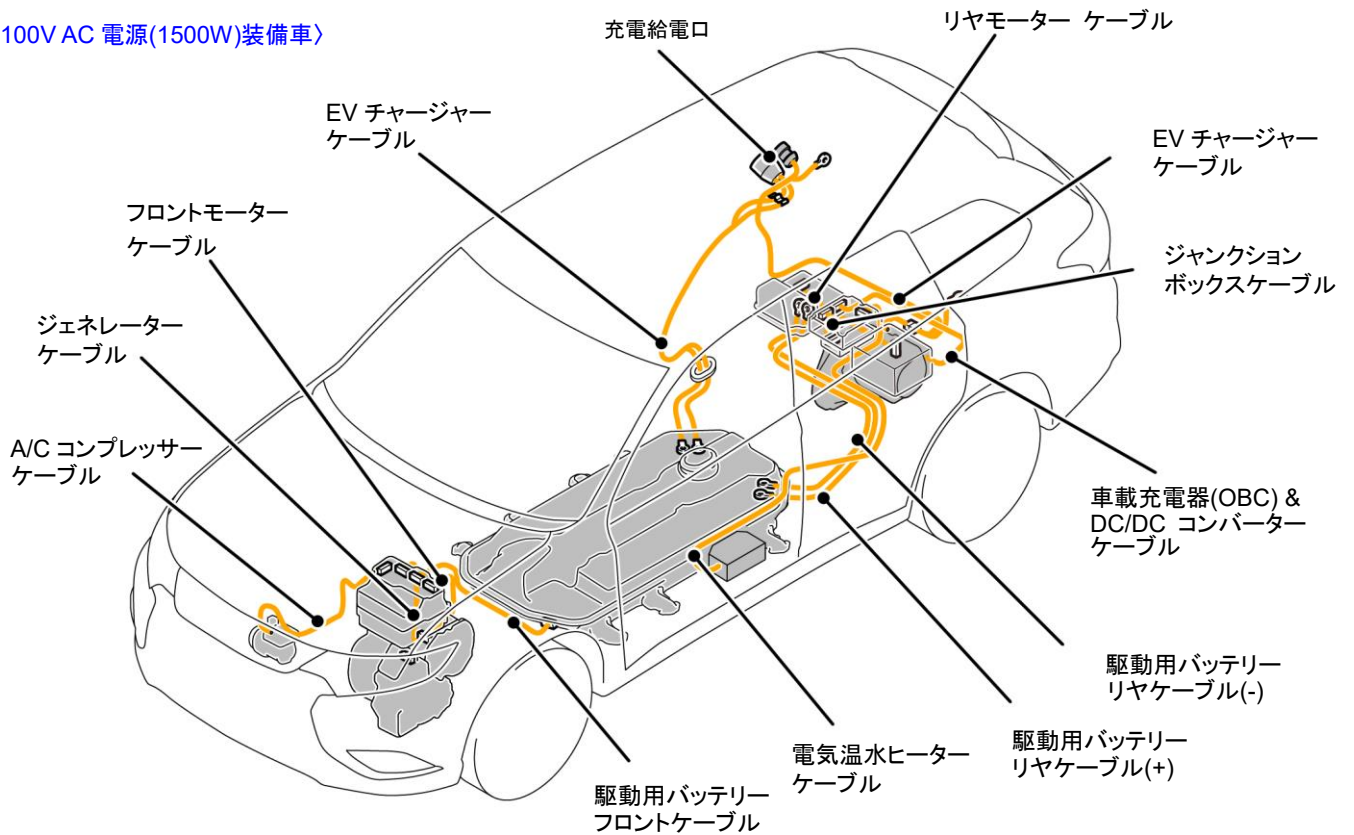
## 2. 高電圧機器配置図

高電圧機器及び高電圧配線は下図のように取付けられています。

〈100V AC 電源(1500W)非装備車〉



〈100V AC 電源(1500W)装備車〉

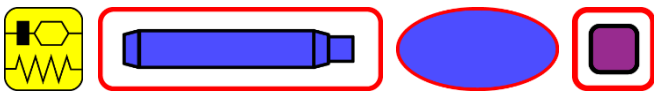
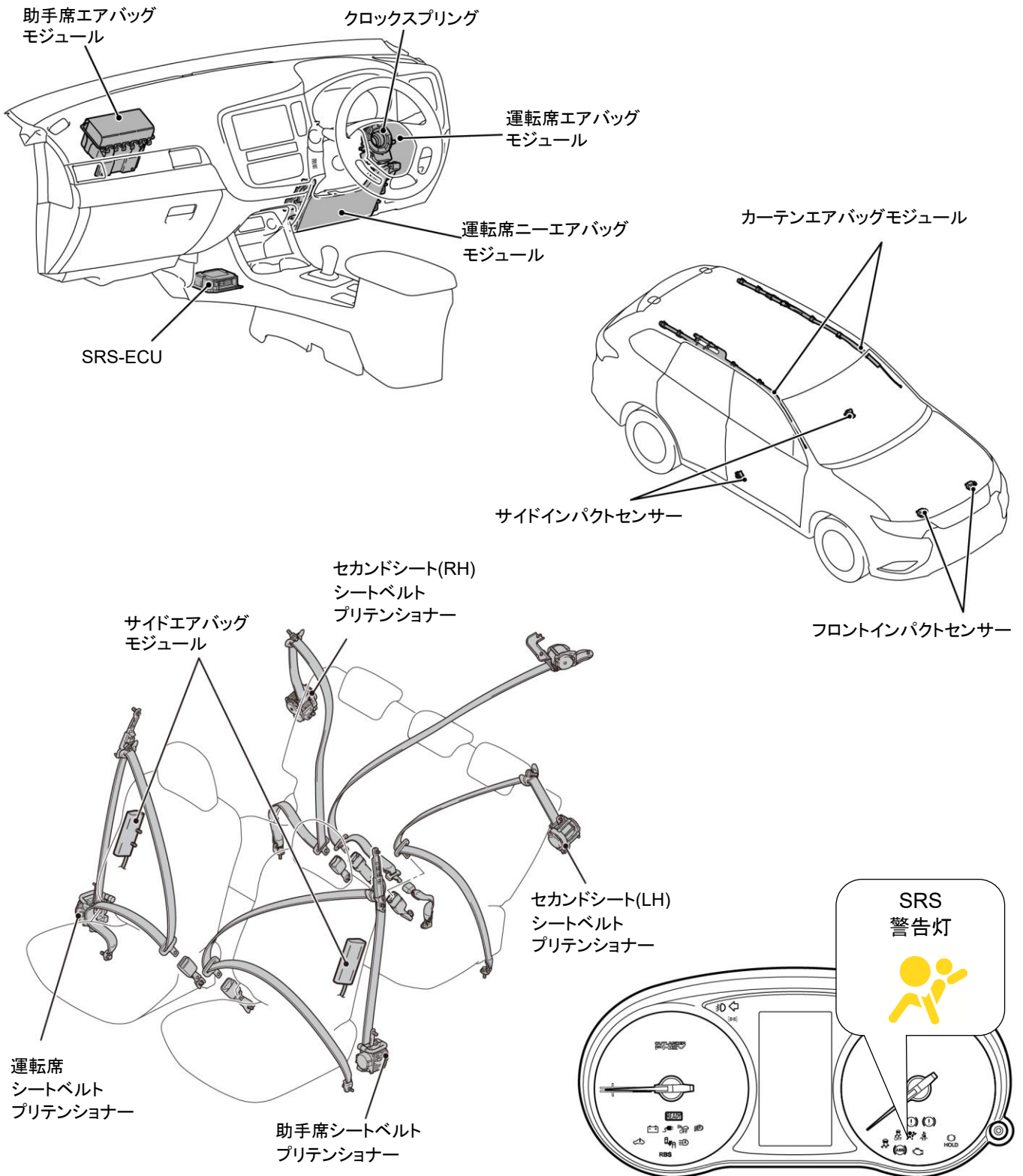


\*: 10.使用ピクトグラムの説明 参照



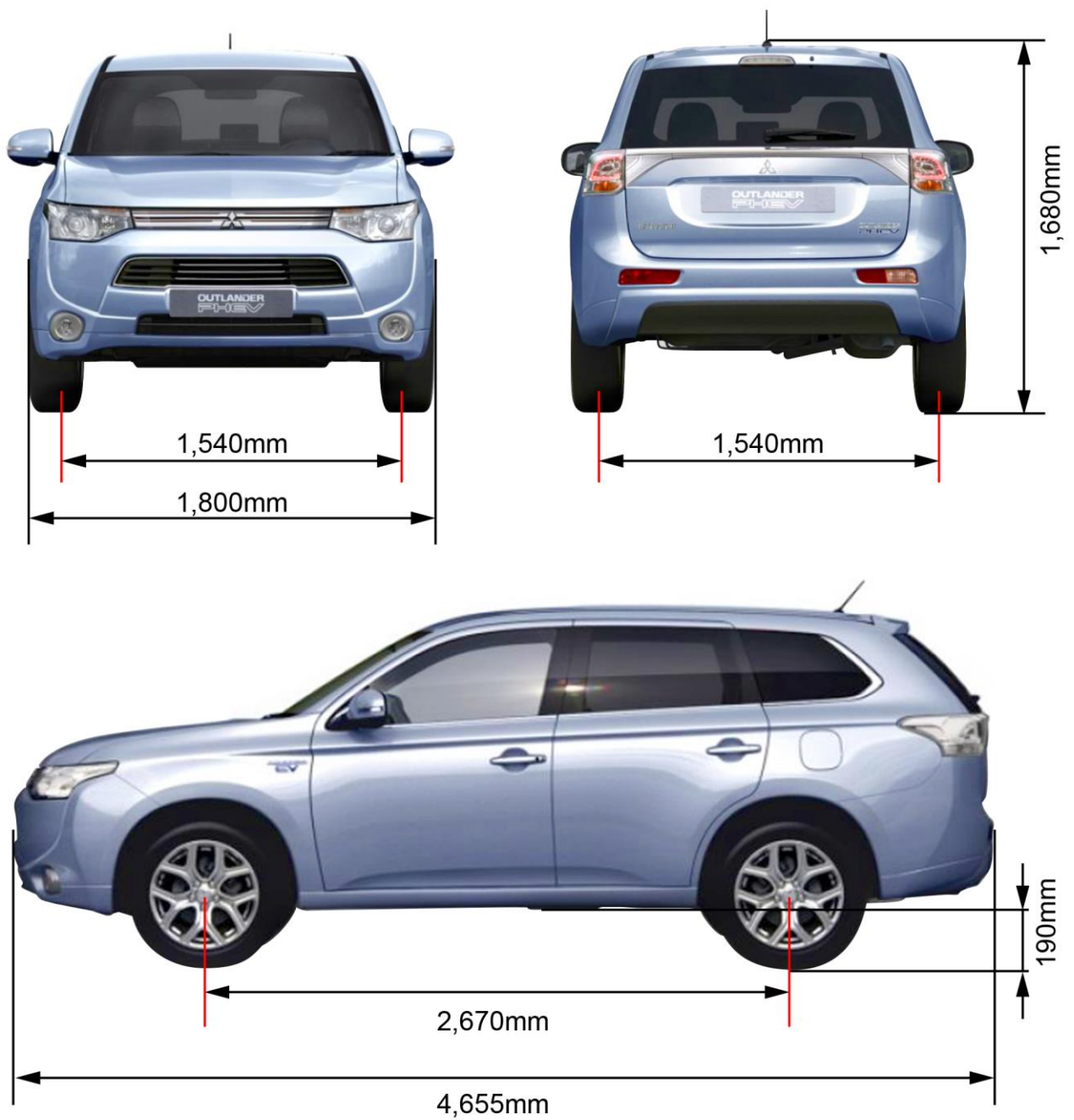
### 3. SRS エアバッグシステム

SRS エアバッグ及び関連機器類は下図のように取付けられています。



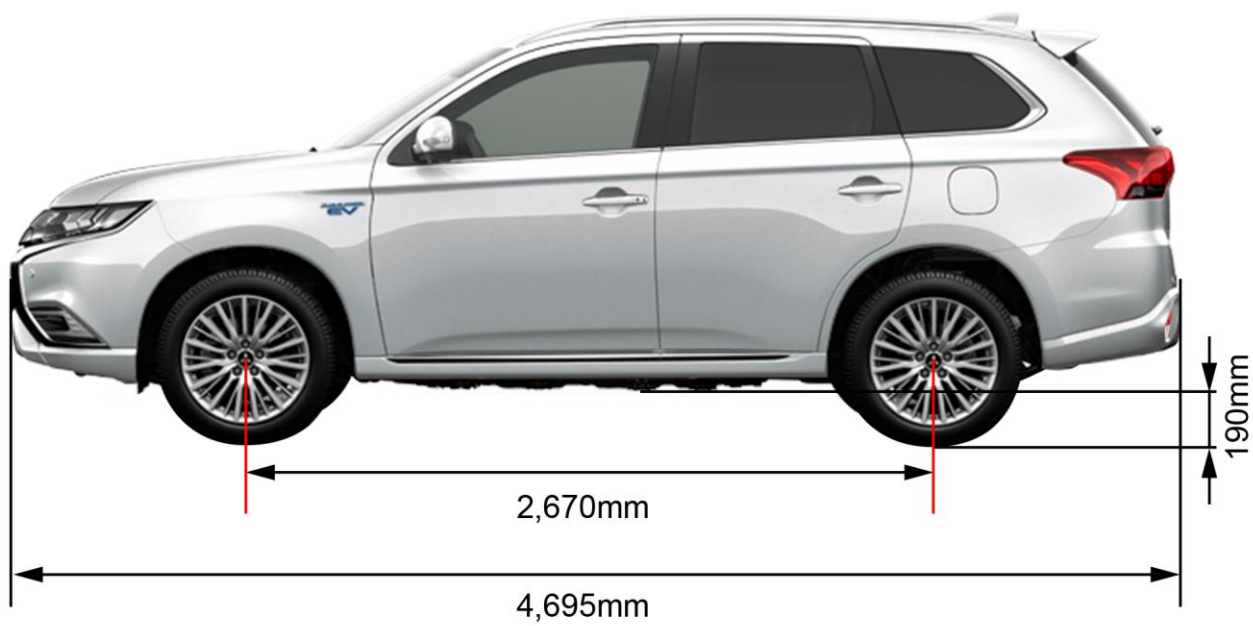
\*: 10.使用ピクトグラムの説明 参照

#### 4. 車両寸法



**車両重量: 1,770 – 1,860kg\***

\* :グレードによって、車両重量が異なります。



**車両重量: 1,820 – 1,940kg\***

\* : グレードによって、車両重量が異なります。

## 2.電源の切り換え・車両支持箇所

### 1. 車両の電源 ON / OFF



#### OFF

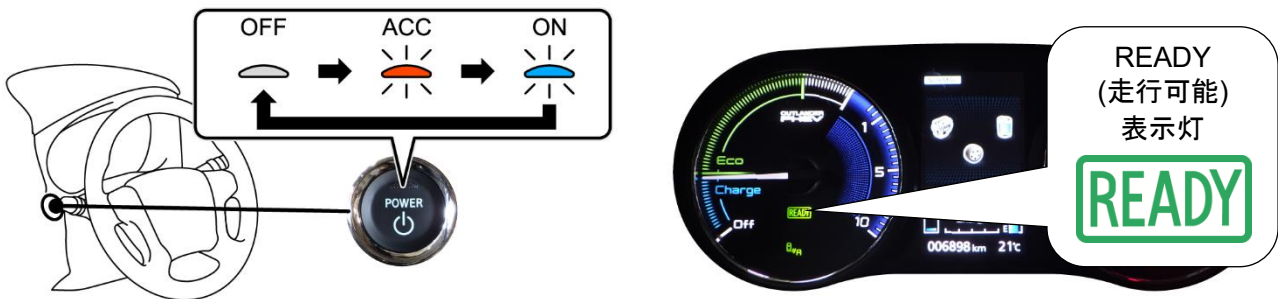
パワースイッチ上のインジケータ及びメーターは消灯します。  
電動パーキングスイッチを押していないときは OFF になりません。

#### ON

すべての電装品が働くモードです。  
パワースイッチ上のインジケータが青色に点灯します。  
ブレーキペダルを踏みながら、パワースイッチを押し、プラグインハイブリッド EV システムを起動させると、READY(走行可能)表示灯が点灯後、青色のインジケータは消灯します。  
ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、電源モードが「OFF」→「ACC」→「ON」→「OFF」の順に切り換わります。

#### READY(走行可能)表示灯

プラグインハイブリッド EV システムを起動中、READY(走行可能)表示灯が点滅します。  
READY(走行可能)表示灯が点滅から点灯に変わると、プラグインハイブリッド EV システムの起動は完了し、走行が可能となります。



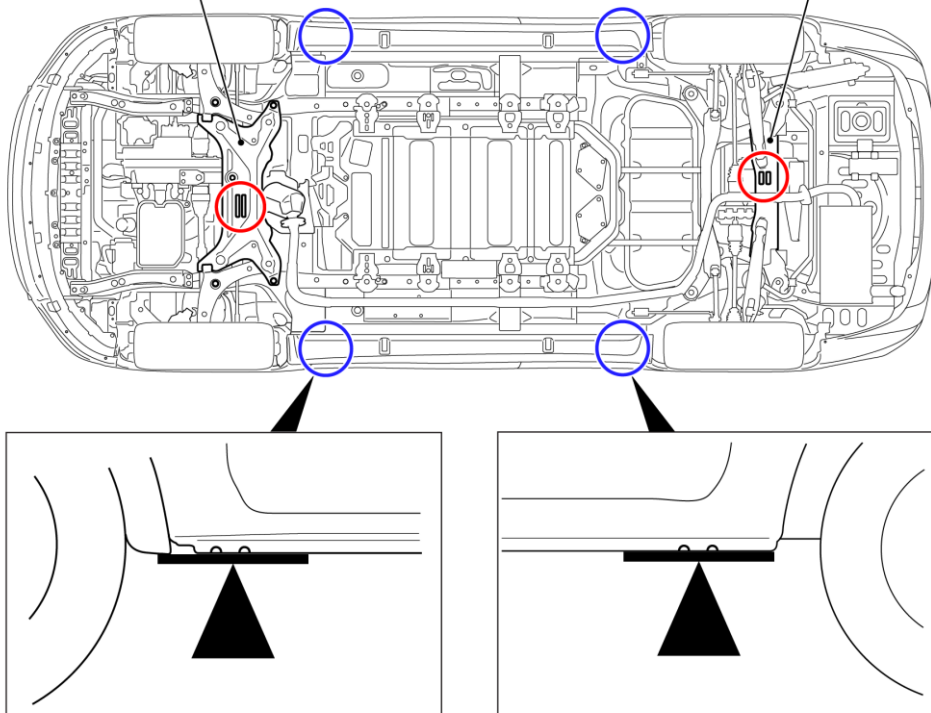
### 2. ジャッキ・リフトの支持位置

#### ⚠ 注意

- 絶対に指定箇所以外で支持しないでください。他の箇所を支持すると、車体の変形などのおそれがあります。

フロントサスペンションクロスメンバー

リヤサスペンションクロスメンバー



○:ガレージジャッキ支持位置 ○: ジャッキ、リジッドラック、リフト支持位置



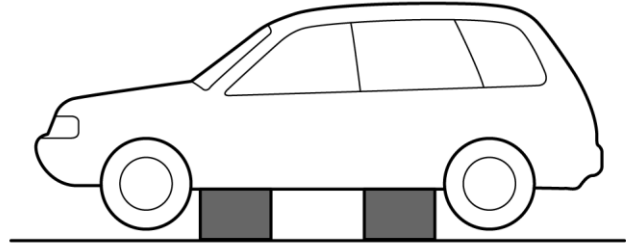
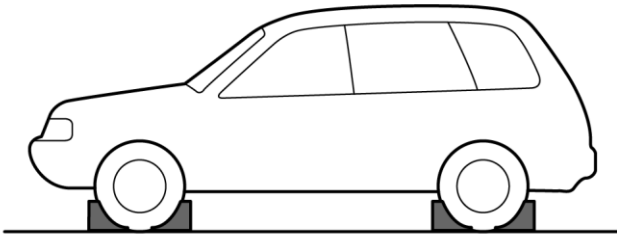
### 3. 車両支持箇所方法

#### ⚠ 注意

- 電動パーキングブレーキをかけるときはブレーキペダルをしっかり踏み、完全に停車してからスイッチを引き上げてください。
- 支持物は排気系・燃料系及び高電圧部品や高電圧ハーネスなどを避けて設置してください。
- 高電圧部品や高電圧ハーネスの内部が露出している場合は、その下に支持物及び救出用リフトエアバッグ装置を置かないでください。

#### 📖 アドバイス

補機用バッテリー(12V)が電圧不足のとき、または上がっているときは、電動パーキングブレーキをかけることも解除することもできなくなります。



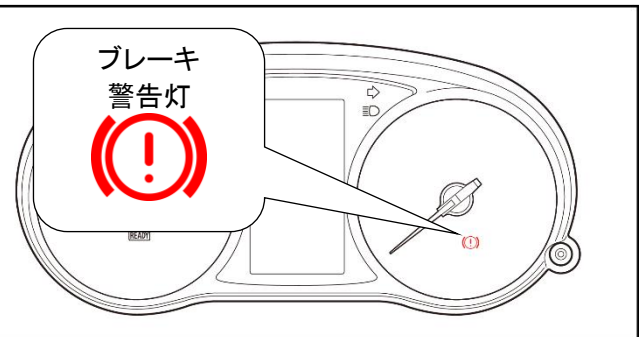
NE0040EEM0

#### ・輪止めによる固定方法

車両を駐車し、電動パーキングスイッチを押してください。

ブレーキペダルを踏んだまま電動パーキングブレーキスイッチを引き上げ、メーター内のブレーキ警告灯(赤)とスイッチ内の表示灯が点灯していることを確認してください。

車輪が固定されたら、輪止めを車両に固定します。



#### ・木片やブロック等による安定方法

車両の下に木片やブロック等の支持物を置き、車両を安定させます。

支持物は必ず指定された、ジャッキ支持位置に配置してください。



\*: 10.使用ピクトグラムの説明 参照

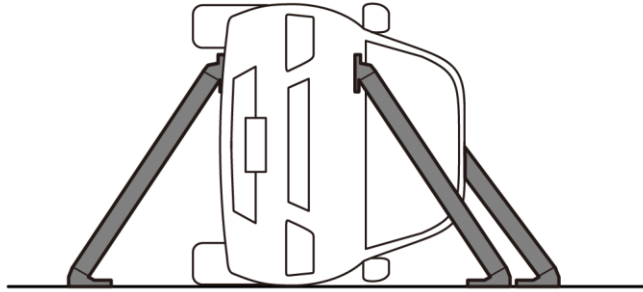


## 横転や転覆した車両の安定方法

### ⚠ 注意

- 十分な強度を有する支持物を使用してください。
- 支柱器具などの設置の際、排気系・燃料系及び高電圧部品や高電圧ハーネスなどを避けて設置してください。
- 高電圧機器や高電圧配線の内部が露出している場合は、露出部を避けて装置を設置してください。

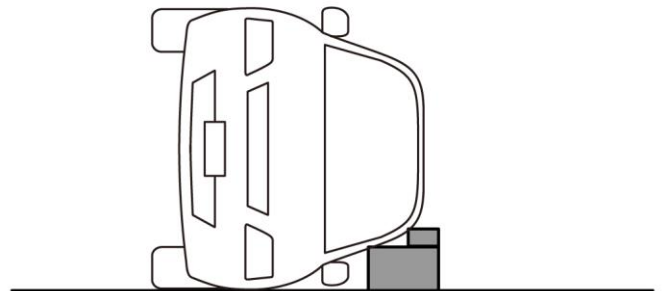
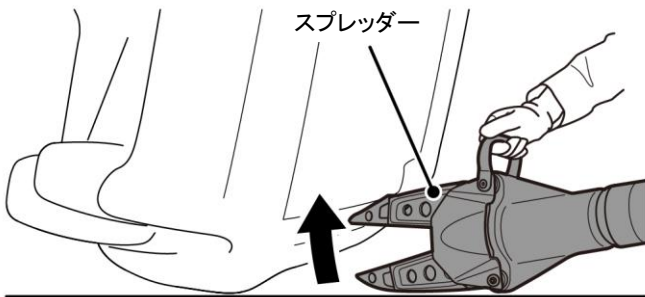
### ・横転車両の救助用支柱器具による安定方法



NE0073EJM0

車両屋根部や、車両底部に支柱器具を設置してください。状況によって支柱を2本、3本、4本と設置し安定させます。

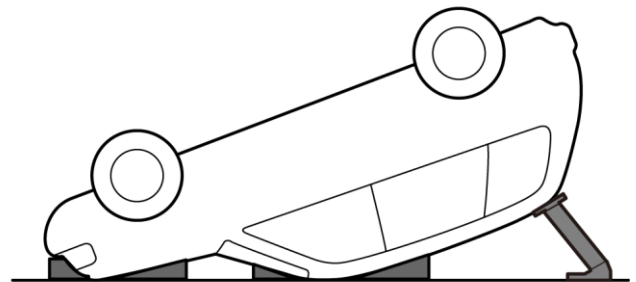
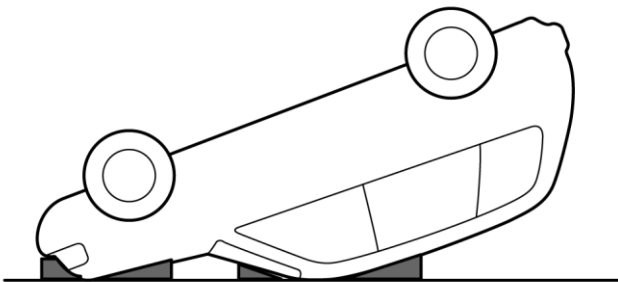
### ・横転車両の木片やブロック等による安定方法



NE0072EJM0

車両を持ち上げる必要がある場合は、スプレッターやジャッキ等を使用し、隙間に木片やブロック等の支持物を置き安定させます。

### ・転覆車両の輪止めやブロック、救助用支柱器具等による安定方法



NE0076EJM0

フード及びピラー部の隙間に輪止め等のブロックを設置し、車両を安定させます。

安定性をより高める場合は、車両後部(強固な箇所)に支柱を置きます。

### 3.安全に作業を行うために

#### アドバイス

補機用バッテリー(12V)の端子を外すと、電気部品に関連する操作ができなくなる場合があります。

以下の作業を行う場合は補機用バッテリー(12V)の端子を外す前に必要な作業を行ってください。

アウトランダーPHEV は最大作動電圧 336V のリチウムイオンバッテリーを搭載し、モーター(パワーユニット)の駆動と一部装備品(エアコン等)の作動に使用しています。

よって、安全に作業を進めるために、作業の前には高電圧の「隔離」と「遮断」が確実に行われているか確認することが必要です。

#### 注意

エンジン音がしなくても、ハイブリッドシステムが OFF とは限りません。高電圧の「隔離」と「遮断」を確実に行ってください。

#### (1)高電圧の隔離

- 1)高電圧回路は、車体と絶縁しています。
- 2)高電圧機器や配線にはケース・カバーを設定しています。  
また、高電圧配線の被覆はオレンジ色で統一しています。
- 3)高電圧機器のケースと機器内高電圧通電部は絶縁しています。

#### (2)高電圧の遮断

- 1)車両の整備や事故などで高電圧系の絶縁が確保できない状況では、駆動用バッテリーからの電流を遮断するシステムを備えています。
- 2)充電中は、充電コネクタを引き抜くことで、高電圧回路を遮断できます。

#### <遮断モード>

システム 状況	手動		自動	
	充電コネクタ	サービスプラグ	パワースイッチ連動	衝突検知
通常使用			○	
点検・整備時		○	○	
衝突時				○
充電時	○			

#### (3)乗員救助及び事故車取扱い時の注意

#### 注意

車両の取扱いを誤ると、感電など重大な傷害を受けるおそれがありますので、十分注意してください。

受傷や感電の危険を減らすためにこのマニュアルに記載された手順に沿って十分注意のうえ、車両の処置を行ってください。

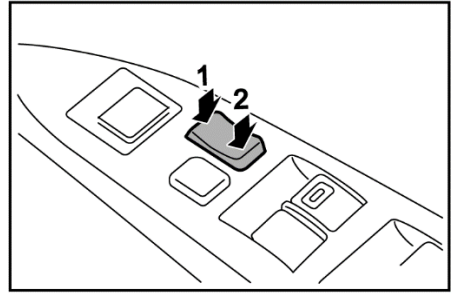
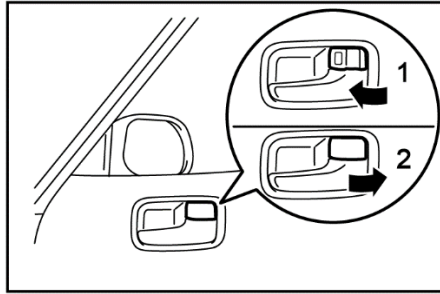
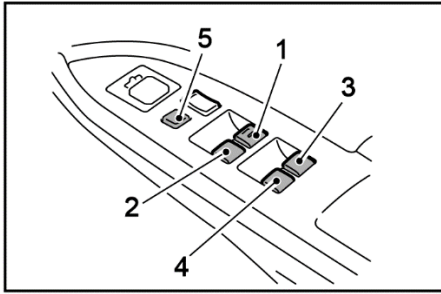
- (1) この車両では、最大作動電圧 336V の高電圧システムを使用しています。
- (2) 駆動用バッテリーは、万が一破損しても大量に電解液が外部に流出しない構造となっています。
- (3) 駆動用バッテリーの電解液には可燃性の「リチウム塩を含む炭酸エステル溶液」を使用しています。  
この電解液は、空気中の水分と反応すると人体に有害な酸性の蒸気を発生します。  
よって、電解液を取り扱う際には有機ガス用マスク・耐溶剤性の手袋・保護メガネを使用し、十分注意してください。
- (4) 三菱リモートコントロール装備車は補機用バッテリー(12V)充電機能、プレ空調機能により、パワースイッチ内のインジケータが消灯していても、高電圧システムが起動している可能性があります。

## 📖 アドバイス

補機用バッテリー(12V)の端子を外すと、電気部品に関連する操作ができなくなる場合があります。

以下の作業を行う場合は補機用バッテリー(12V)の端子を外す前に必要な作業を行ってください。

### 1. パワーウィンドウ / ドアロック



#### パワーウィンドウ

- 1 - 運転席側
- 2 - 助手席側
- 3 - 後席右側
- 4 - 後席左側
- 5 - ロックスイッチ

#### ドアロック

- 1 - 施錠
- 2 - 解錠

## 📖 アドバイス

運転席のスイッチを操作すると、すべてのドアの施錠/解錠が連動します。

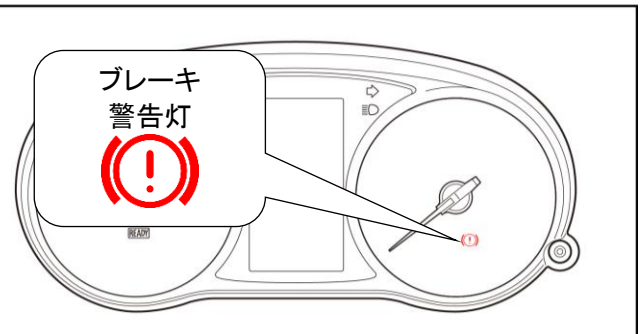
### 2. 電動パーキングブレーキ

#### ・かけるとき

- 1) 車両を完全に止めます。
- 2) ブレーキペダルを踏んだまま電動パーキングブレーキスイッチを引き上げます。



電動パーキングブレーキスイッチ



メーター内のブレーキ警告灯(赤)とスイッチ内の表示灯が点灯していることを確認してください。

## ⚠️ 注意

-電動パーキングブレーキをかけるときはブレーキペダルをしっかりと踏み、完全に停車してからスイッチを引き上げてください。

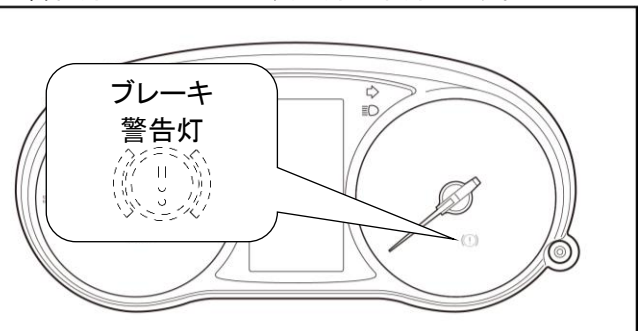
#### ・解除するときは

##### 手動解除

- 1) パワースwitchの電源モードを ON にします。
- 2) ブレーキペダルを踏んだまま電動パーキングブレーキスイッチを押します。
- 3) 電動パーキングブレーキを解除すると、メーター内のブレーキ警告灯とスイッチ内の表示灯が消灯します。



電動パーキングブレーキスイッチ



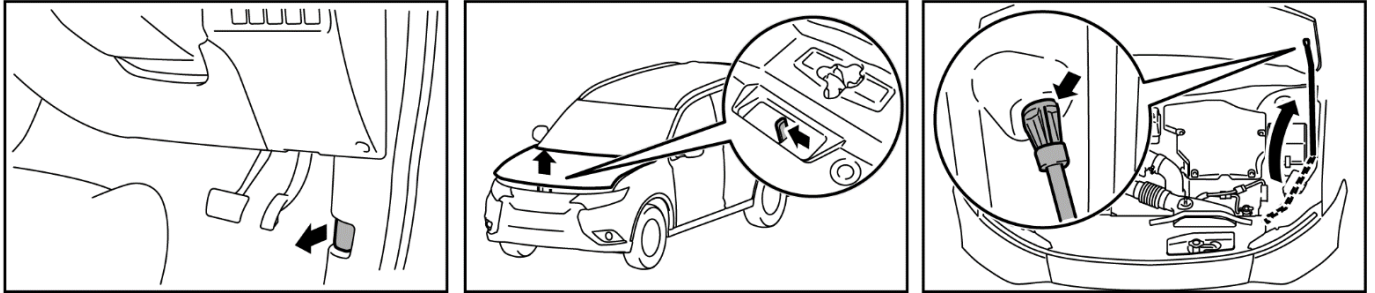
## 自動解除

つぎの条件がそろったときにアクセルペダルをゆっくり踏み込むと、電動パーキングブレーキが自動で解除されます。

- プラグインハイブリッドEV システムが起動している
- セレクトポジションがDまたはRの位置にある
- 運転席のシートベルトを着用している

## 3. エンジンフード(ボンネット)の開け方

- 1) 運転席右下にあるレバーを引くとエンジンフードが少し浮き上がります。
- 2) エンジンフードのすき間に手を入れ、前端中央部のレバーを左へ押しながらエンジンフードを持ち上げます。
- 3) 支持棒をエンジンフードの穴に差し込みエンジンフードを確実に固定します。



## 4. テールゲートの操作

### 📖 アドバイス

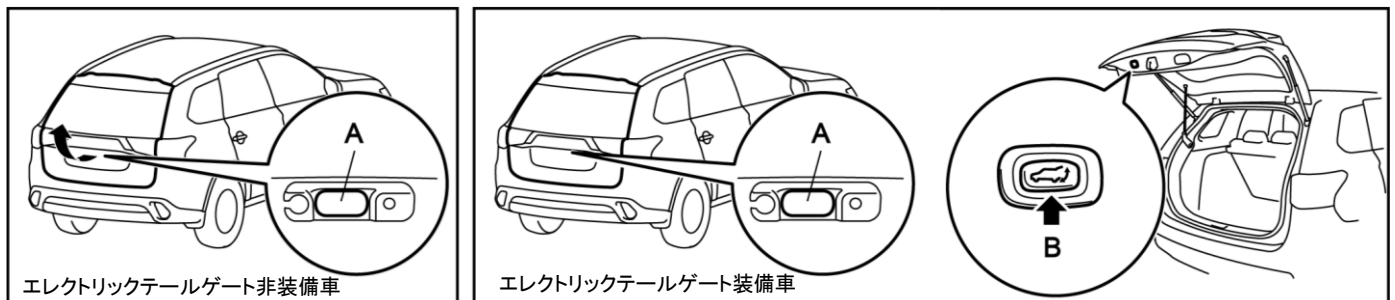
- OPEN スイッチを押した後すぐに開けないと、テールゲートは持ち上がりません。その場合はもう一度 OPEN スイッチを押してテールゲートを持ち上げます。
- 補機用バッテリー(12V)が電圧不足や上がっているとき、又は端子を外しているときは、テールゲートを開けることはできません。

### ・ 車外からテールゲートを開ける方法

ドアロック解錠後、OPEN スイッチ(A)を押してテールゲートを持ち上げます。

エレクトリックテールゲートの場合、OPEN スイッチ(A)を押すと警告ブザーが鳴り、自動で開きます。

なおクローズスイッチ(B)を押すと警告ブザーが鳴り、エレクトリックテールゲートが閉まります。



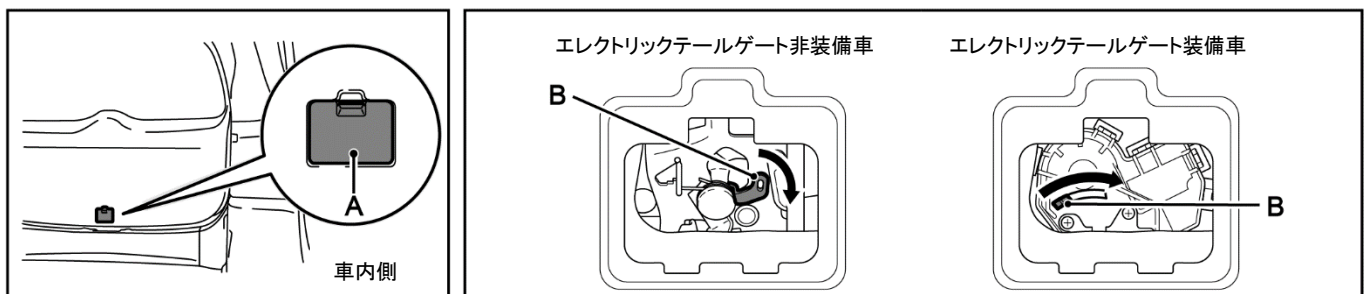
### ・ 車内からテールゲートを開ける方法

車内からもテールゲートを開けることができます。

補機用バッテリー(12V)上がりなどで車外から開けられなくなったときにご使用ください。

車内からインサイドリリースレバーのカバー(A)を外します。

インサイドリリースレバー(B)を矢印の方向に動かし、テールゲートを押しながら開けます。





## 5. 補機用バッテリー(12V) マイナス端子切り離し方法

### ⚠ 注意

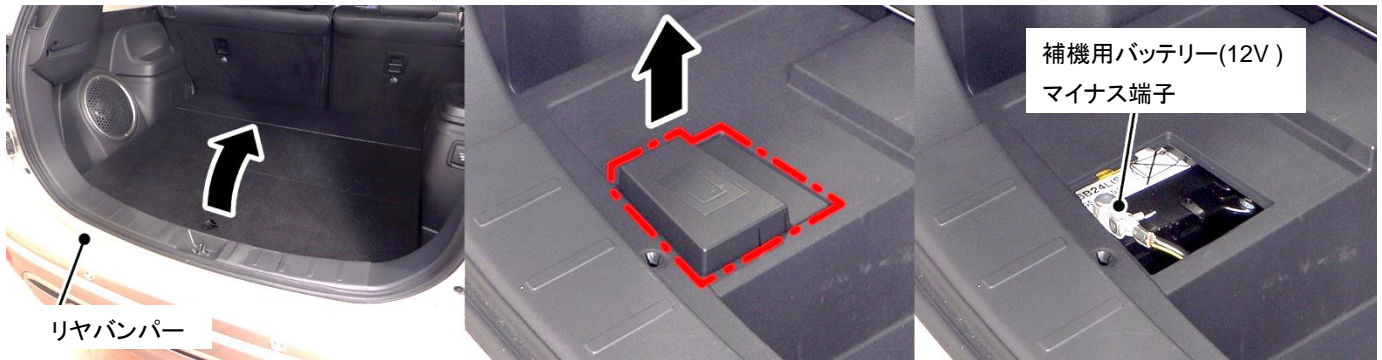
パワースイッチの電源モード OFF 後、1 分間は補機用バッテリー(12V)のマイナス端子を切り離さないこと。



以下の手順で 10mm のスパナなどを使用して補機用バッテリー(12V)のマイナス端子を外し、外したマイナス端子をビニールテープなどで絶縁してください。

補機用バッテリー(12V)のマイナス端子を外すことで、SRS エアバッグシステムの回路を遮断します。

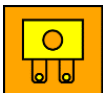
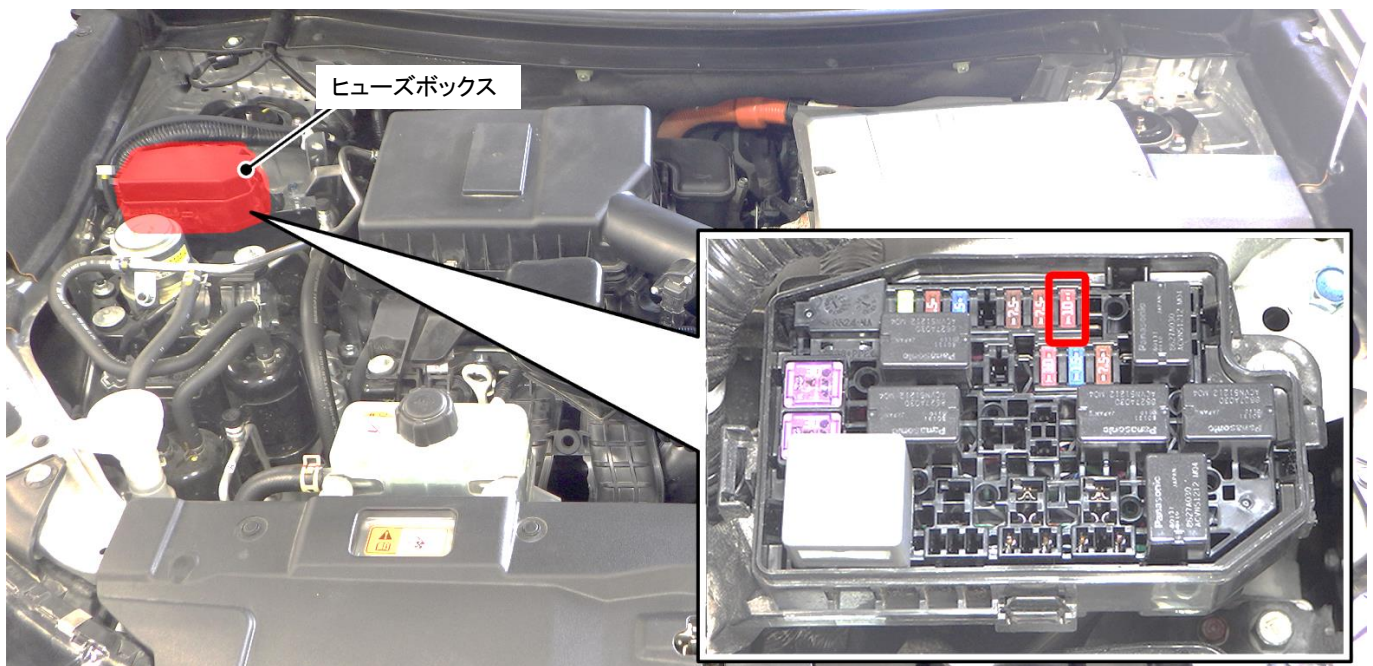
- 1) リヤキャビン内のラゲッジフロアボックスのストラップを持ち上げます。
- 2) 補機用バッテリー(12V)サービスリッドを取外します。
- 3) 補機用バッテリー(12V)のマイナス端子を切り離します。



## 6. 「パワーコントロールユニット」用ヒューズの取外し方法

エンジンルーム内のヒューズボックスより「パワーコントロールユニット」用のヒューズ(10A、下図赤枠部)を、ヒューズ外しなどを使用して取外す。

なお、ヒューズの位置が分からない場合は、全てのヒューズを取外してください。



\*: 10.使用ピクトグラムの説明 参照



## 7. サービスプラグの取外し方法

### ⚠ 注意

補機用バッテリー(12V)のマイナス端子を切り離してから5分間はサービスプラグを抜かないこと。



- 1) 絶縁保護具を着用し、以下の手順でサービスプラグを取外してください。  
サービスプラグを抜き取ることで、駆動用バッテリー内の高電圧回路を遮断します。
- 2) 2席中央足元のサービスリッドカバーを持ち上げ外してください。(クリップ×4個)  
10mmのスパナなどを使用してサービスリッドのナットを外します。(ナット×4個)

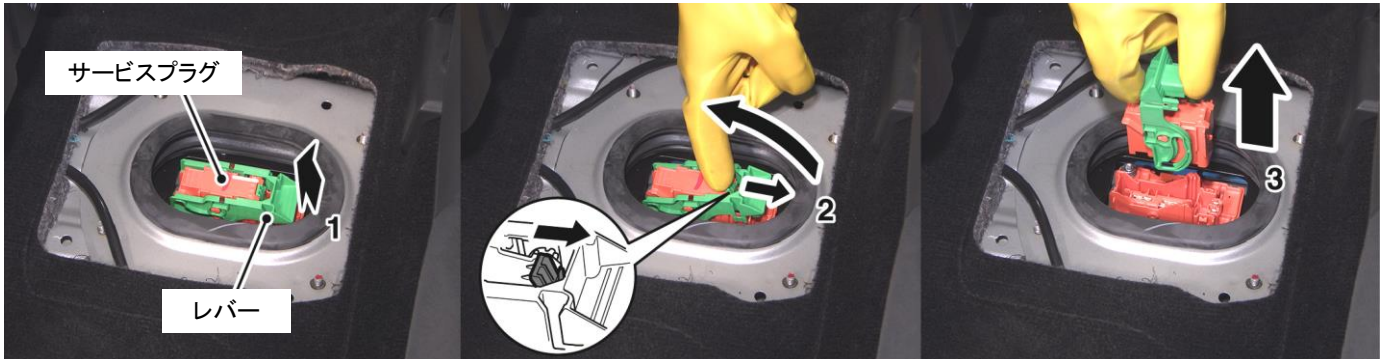


### ⚠ 警告

サービスプラグを抜き取る際は、必ず絶縁保護具を着用してください。



- 3) 絶縁保護具の着用を確認し、サービスプラグを取外してください。
  1. サービスプラグのレバーを止まるまで起こしてください。
  2. サービスプラグのレバーロックを解除しながら、サービスプラグのレバーを更に起こしてください。
  3. サービスプラグを上方に引き抜いて取外します。



\*: 10.使用ピクトグラムの説明 参照

## 4.乗員救助

救助を行う際、感電などの重大な傷害を招く可能性があります。

高電圧ケーブルや高電圧部品に触れないよう注意してください。必要に応じて高電圧回路を遮断してください。

### 📖 アドバイス

補機用バッテリー(12V)の端子を外すと、電気部品に関連する操作ができなくなる場合があります。

補機用バッテリー(12V)の端子を外す前に必要な作業を行ってください。

### ⚠️ 警告

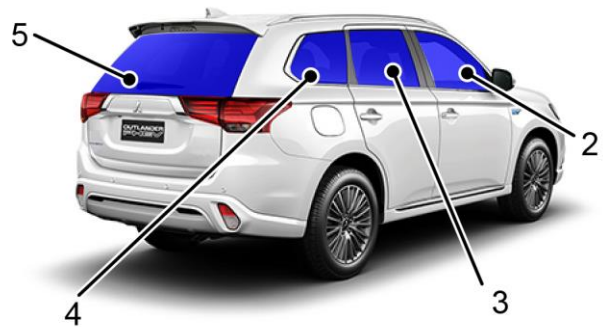
車体又は車体と接触している物に触れる場合や接触の可能性がある場合は、必ず絶縁手袋や絶縁ゴム底安全靴等の絶縁保護具(耐電圧 500V 以上)を着用してください。



### ⚠️ 注意

・補機用バッテリー(12V)が電圧不足や上がっているとき、端子が外れているときは、エレクトリックテールゲートを開けることはできません。また、電動パーキングブレーキをかけることも解除することもできなくなります。

### 1. ウインドウ

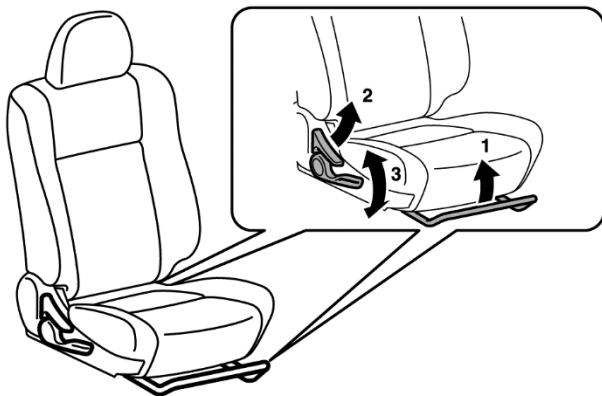


1 - 合わせガラス      2 - 6 強化ガラス

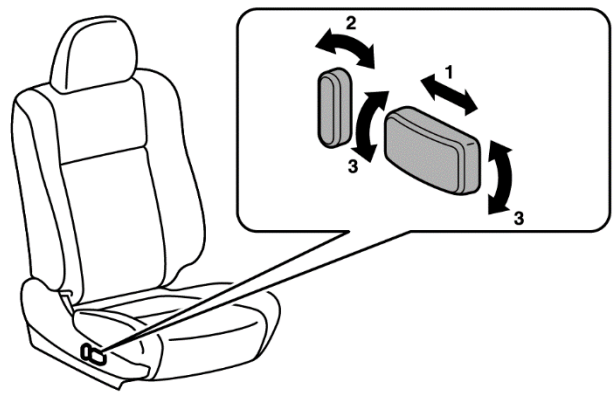
### 2. シート調整、ハンドル調整

#### ・シート

#### <手動式>



#### <電動式>



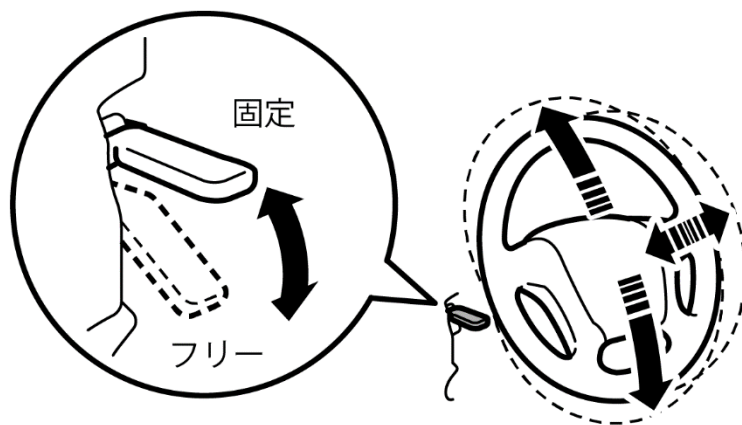
1 - 前後調整  
2 - 背もたれの角度調整  
3 - 高さ調整(運転席のみ)

1 - 前後調整  
2 - 背もたれの角度調整  
3 - 高さ調整



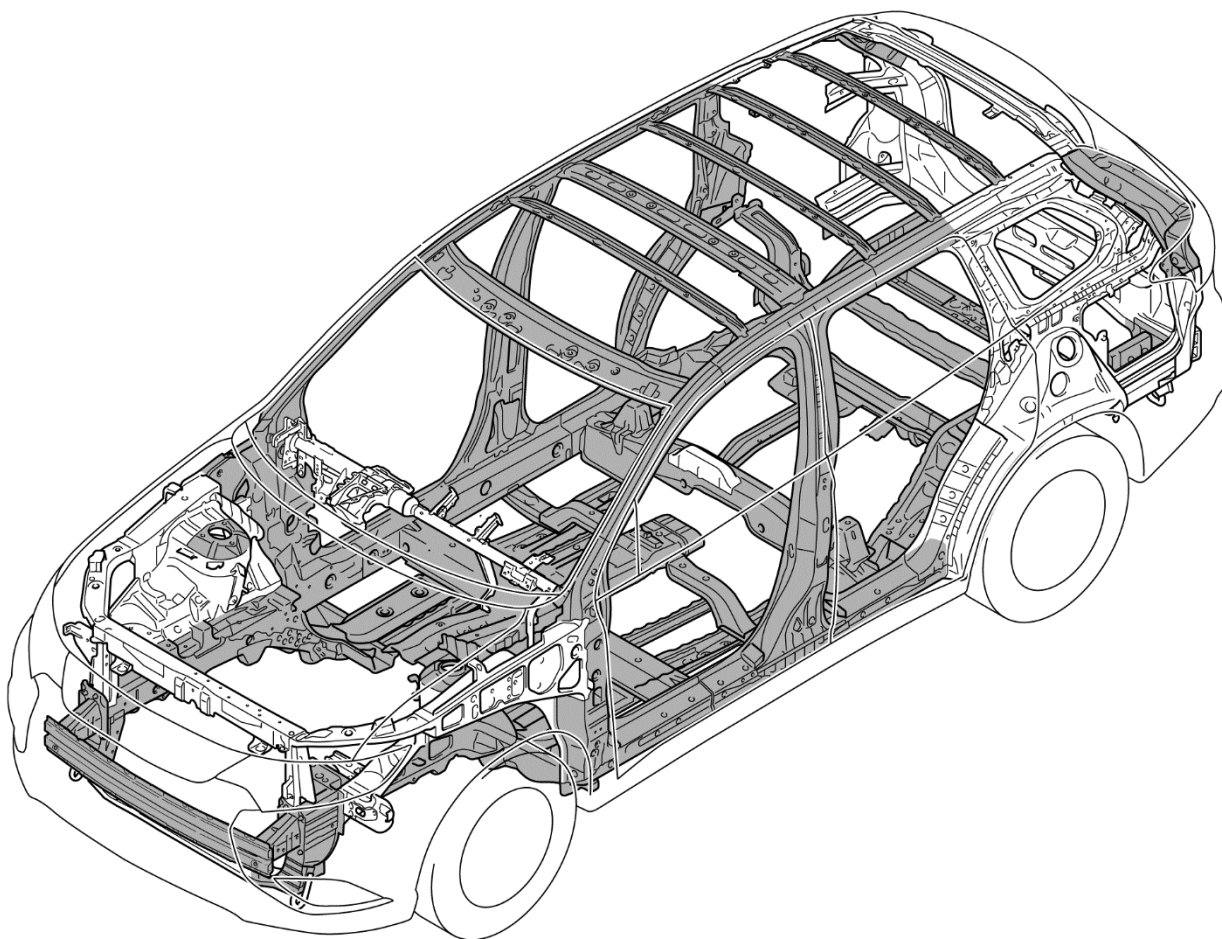
\*: 10.使用ピクトグラムの説明 参照

## ハンドル



\*: 10.使用ピクトグラムの説明 参照

### 3. 高張力鋼板及び超高張力鋼板使用箇所



■:高張力鋼板及び超高張力鋼板



#### 4. 車体切断




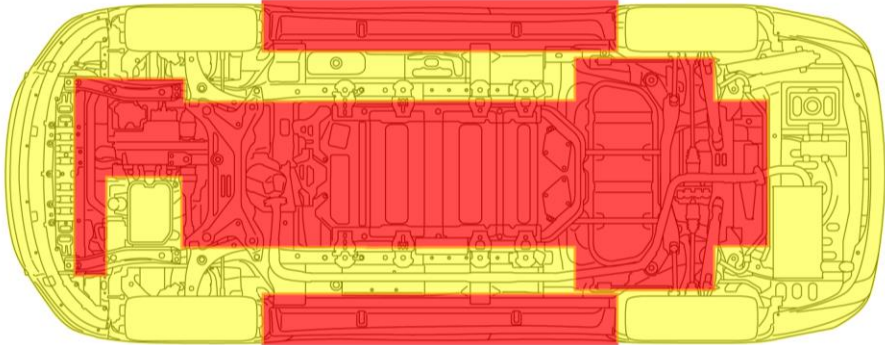
車体を切断し救助作業を行ってください。

- 事前確認

「1-2.高電圧機器配置図」及びこのページを確認した後に車体切断作業を開始してください。

**警告**

- 乗員・救助者に重大な傷害を及ぼすおそれがありますので、車体切断の際は油圧カッターなどの火花の飛ばない適切な切断機器を使用してください。
- なお、部品を外す際には以下の項目で示した部位で露出したオレンジ被覆の高電圧配線には触れないよう十分に注意して作業を行ってください。
- 駆動用バッテリーは絶対に切断しないでください。

	<p>高電圧による感電のおそれがある箇所 高電圧による感電のおそれがあるため、高電圧部品・配線のある部位は切断不可。</p> <p>エアバッグが展開するおそれがある箇所 カーテンエアバッグ展開用インフレーター装置、配線ショート、衝撃によりエアバッグが展開するおそれがあるため、切断不可。 ただし、エアバッグがすでに展開している、もしくはIG OFF 後か補機用バッテリー(12V)のマイナス端子を切り離した後、1分以上経過していれば切断可能。</p>
	<p><b>切断可能部</b></p>
	
<p>← 車両前方</p> 	
<p>下面視</p>	

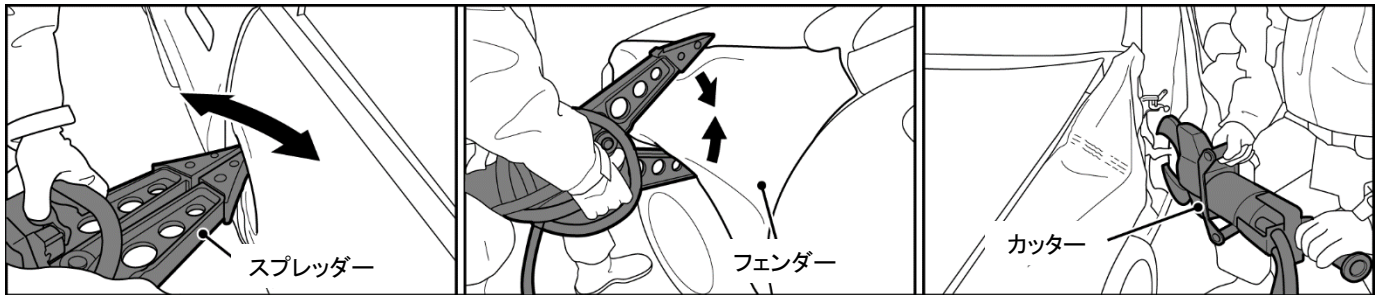
## 5. スプレッターやカッターによるドアの開放

### ⚠ 警告

- 乗員・救助者に重大な傷害を及ぼすおそれがありますので、車体切断の際は油圧カッターなどの火花の飛ばない適切な切断機器を使用してください。
- なお、部品を外す際にはオレンジ被覆の高電圧配線には触れないよう十分に注意して作業を行ってください。
- 駆動用バッテリーは絶対に切断しないでください。

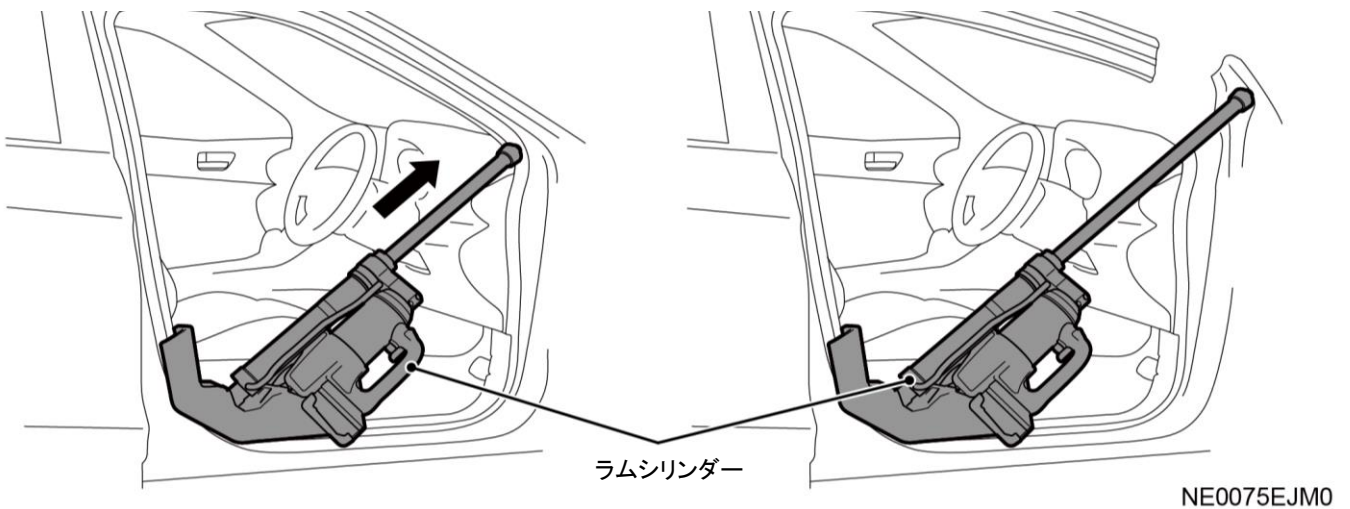
外からドアを開ける事が出来ない場合、必要に応じてスプレッターやカッター等を使用し、救助を行ってください。

- 1) スプレッターの先端をドアラッチ部分に差込み、スプレッターを広げ、隙間を作ります。
- 2) 必要に応じてフェンダー部分をスプレッターにて圧縮して、ドアのヒンジ部分に隙間を作ります。
- 3) 作成したヒンジ部分の隙間にカッターを差込んで破壊し、ドアを開放してください。



## 6. ラムシリンダーによる空間確保

ボディーがつぶれて乗員救助を行う事が出来ない場合、ラムシリンダーを使用してつぶれたボディーを押し広げ、救出する隙間を確保してください。必要に応じて、ピラー部をカットし拡張してください。





## 5.使用されている液体類・駆動用バッテリーについて

### 使用されている液体類

	容量	色
フューエルタンク 	45 L	薄いオレンジ
駆動用バッテリー 	～17 年型 : 12kWh 19 年型～ : 13.8 kWh	無色透明
補機用バッテリー(12V) 	36 Ah	無色透明
エンジンオイル 4.3 L (オイルパン) 0.3 L (オイルフィルター)		茶褐色
エンジン冷却水	6.5 – 7.5 L	青
モーター冷却水	6.5 L	青
ブレーキフルード	所要	無色透明
フロントモーターオイル	2.2 L	青
トランスアクスルオイル	4.31 L (フロント:3.46 L / リヤ:0.85L)	赤
冷媒ガス 	HFC-134a : 520 – 560g	無色透明

### 警告

駆動用バッテリーの電解液には可燃性の「リチウム塩を含む炭酸エステル溶液」を使用しています。



\*: 10.使用ピクトグラムの説明 参照

### 駆動用バッテリーについて

#### 駆動用バッテリー

- モーター及びエアコンを作動させるバッテリーです。この車には駆動用バッテリーの他に照明、ワイパーなどを作動させる補機用バッテリー(12V)も搭載しています。

#### 救助作業時の注意点

- プラグインハイブリッドEV システムは、最大で **336V** の直流高電圧が使用されるため、システム起動中や起動後、車両が止まったときに高温になることがあります。車両に貼り付けているラベルに従い、高電圧と高温に注意してください。
- 駆動用バッテリー及び関連部品には電圧がかかっており、常に駆動用バッテリーは満充電の状態であると考えてください。
- READY(走行可能)表示灯が点灯しているとき、及び充電ランプが点灯・点滅しているときは、高電圧システムが作動しているため、絶対に作業を行わないでください。

#### 変形・損傷があるとき

- 駆動用バッテリー付近から液体の漏れ、火花、煙、火炎、ゴボゴボ音、シューシュー音、又はパンという音がする場合はバッテリー火災のおそれがあります。すぐに消防に連絡してください。
- 車両又は駆動用バッテリーが損傷している場合は、有毒ガスや可燃性ガスが発生して発火するおそれがあります。事故後しばらく時間が経過してからガスが発生することもあるため、注意してください。

## 6. 車両が火災の場合

### 1. 車両火災

車両火災の場合は、直ちに消防署に連絡し、以下の手順で消火を開始してください。

#### 注意

取扱いを誤ると感電など重大な傷害を受けるおそれがありますので、十分注意してください。

- 1) 駆動用バッテリーは、万が一破損しても大量に電解液が外部に流出しない構造となっています。
- 2) 駆動用バッテリーの電解液には可燃性の「リチウム塩を含む炭酸エステル溶液」を使用しています。  
この電解液は、空気中の水分と反応すると人体に有害な酸性の蒸気を発生します。
- 3) 電解液を取り扱う際には有機ガス用マスク・耐溶剤性の手袋・保護メガネ等を使用してください。



\*: 10.使用ピクトグラムの説明 参照

### 2. 消火



消火器または大量の水を使用してください。

#### 警告

- ・駆動用バッテリーの消火には海水や塩分を含んだ水は絶対に使用しないでください。
- ・駆動用バッテリーに海水や塩分を含んだ水を絶対に注入しないでください。

#### 1) 消火器での消火

使用する消火器は、油火災(ガソリン、石油、油などによる火災)、電気火災(電気配線、電気機器などによる火災)の両方に有効な消火器を使用してください。(ABC 粉末消火器など)

#### 2) 水での消火

消火栓など大量の水が確保できる場合のみ水による消火が可能です。

また、消火に使用する水は水道水や井戸水などの塩分を含まない水である必要があります。

少量の水による消火は危険なので絶対に行わないでください。

駆動用バッテリー内部に少量の水が侵入した場合、内部ショートを起こして有毒ガスを発生させる可能性があります。

塩分を含まない大量の水が確保できない場合は、消防隊が到着するまで安全な場所に退避してください。



\*: 10.使用ピクトグラムの説明 参照

## 7.車両が水没している場合

### 1. 車両水没

#### 注意

・アウトランダーPHEVは、駆動用バッテリー及び高電圧機器が水に浸かっている場合は水没扱いになります。

車両が水没又は部分的に水没している場合は、乗員救助を行い、車両を水から引き上げます。

水から引き上げたら高電圧電源を遮断します。[\(3-7 参照\)](#)

車両が水没している場合、水が駆動用バッテリー内に入るおそれがあります。

駆動用バッテリー内に少量の水が浸入した場合、内部の短絡による異常加熱や発火のおそれがあります。

#### 警告

・駆動用バッテリー内に塩分を含んだ水が浸入した場合、可燃性の水素ガスや火災が発生するおそれがあります。

・塩分による急激な電気分解で大量の水素が発生し、引火の可能性があります。

・車室内に水素ガスが充満する可能性があるため、窓やドアを開放してください。

### 作業要領

車両に損傷がないか確認してください。

以下の状態が確認された場合は、駆動用バッテリーやオレンジ色の高電圧配線に触れないように絶縁保護具を着用の上、注意しながら作業を行ってください。

1. 車両の損傷が激しい場合
2. 駆動用バッテリーが変形・損傷、内部の部品が露出している場合
3. 駆動用バッテリーの損傷状態が把握できない場合

#### 注意

駆動用バッテリーの損傷等により、駆動用バッテリー内への注水処理ができない場合には、お近くの三菱自動車特約販売会社へ処理方法を確認願います。

### 救助作業後の処置

- 1) 車内からテールゲートを開ける方法 [\(3-4 参照\)](#)
- 2) 「補機用バッテリー(12V)」マイナス端子切り離し方法 [\(3-5 参照\)](#)
- 3) 「パワーコントロールユニット」用ヒューズの取外し方法 [\(3-6 参照\)](#)
- 4) 「サービスプラグ」の取外し方法 [\(3-7 参照\)](#)
- 5) 「駆動用バッテリーの放電処置」の方法 [\(9-3 参照\)](#)



\*: 10.使用ピクトグラムの説明 参照

## 8.車両の運搬及びけん引

### 1. レッカー車などでの運搬方法

事故などで車体や足まわりに損傷を受けた車両をレッカー車などで運搬する場合は、必ず4輪すべて持ち上げた状態で運搬してください。

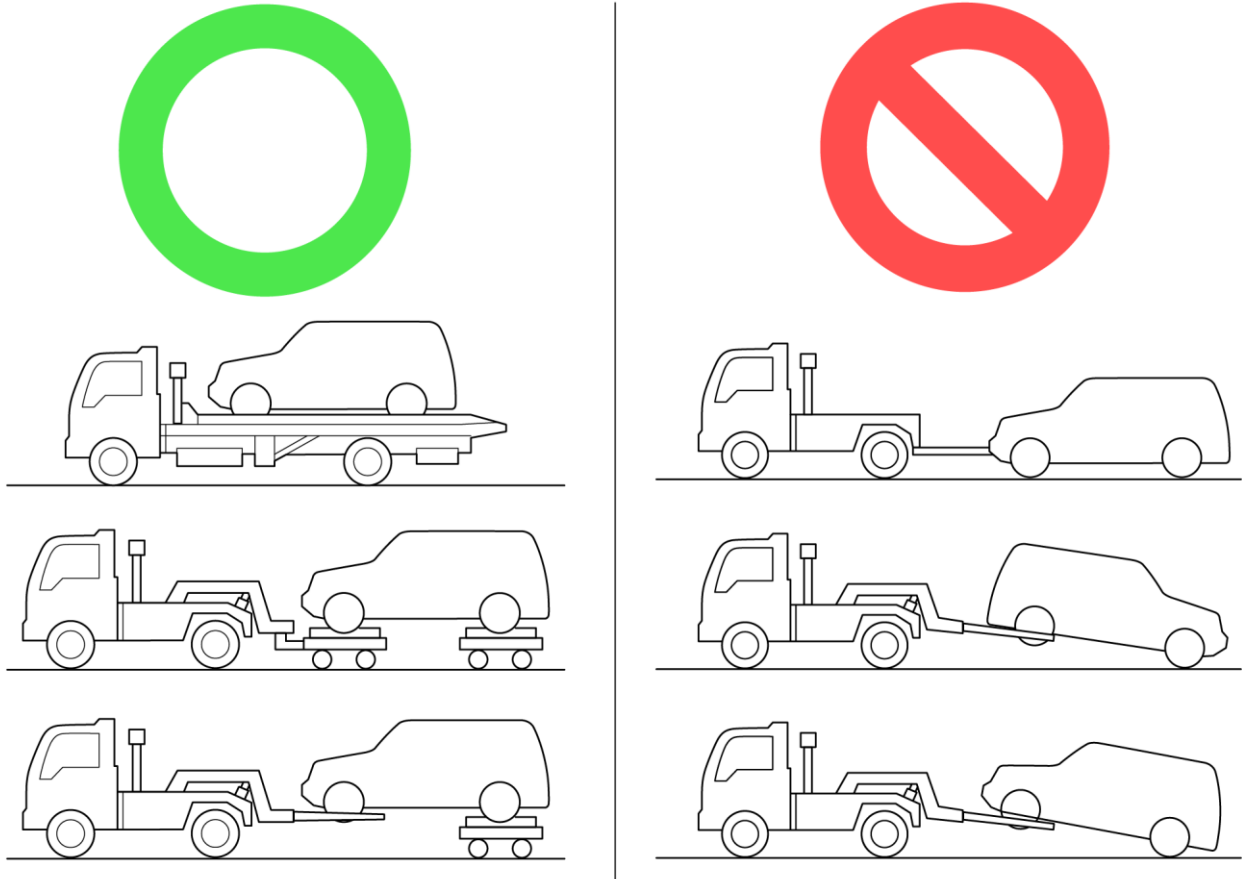
- 車両寸法 (1-4 参照)

#### ⚠ 警告

前輪及び後輪を接地してのけん引はしないでください。モーターやトランスアクスルなどが損傷するおそれがあります。

#### ⚠ 注意

補機用バッテリー(12V)の容量が低下している場合、又は補機用バッテリー(12V)のマイナス端子を切り離れた状態では、電動パーキング(Pレンジ)から切り換わりません。



- 図は車載の一例を示します。

- 積車時は、車両を損傷させないように十分注意してください。



## 2. けん引方法 (非常時のみ)

- 1) けん引ロープをけん引フックにかけます。
- 2) けん引ロープには、30cm 平方(タテ 30cm ×ヨコ 30cm)以上の白い布を必ずつけてください。(車間は5 m以内)
- 3) プラグインハイブリッド EV システムを起動します。プラグインハイブリッド EV システムが起動できないときは、パワースイッチの電源モードを ON にします。
- 4) セレクトポジションを"N"にします。
- 5) パーキングブレーキを解除します。  
電動パーキングブレーキ装備車はブレーキペダルを踏んだまま電動パーキングブレーキスイッチを押し解除する。  
メーター内の表示灯が消灯していることを確認してください。
- 6) 後続車に注意をうながすため、けん引される車は非常点滅灯を点滅させます。
- 7) 常にけん引ロープをたるませないようにしてください。

### ⚠ 警告

プラグインハイブリッド EV システムを起動せず、パワースイッチの電源モードを ON にしてけん引すると、けん引中に補機用バッテリー(12V)が上がる場合があります。

この場合、ブレーキの効きが非常に悪くなり、ハンドル操作が非常に重くなります。

### ⚠ 注意

・レーダークルーズコントロールシステム(ACC)付き車及び衝突被害軽減ブレーキシステム(FCM)付き装備車は、けん引時の思わぬ事故や予期しない作動を防ぐため、システムを停止させてください。

(FCM を OFF にする - 次頁参照)

(レーダークルーズコントロールシステム(ACC)を OFF にする - 次頁参照)


・安全のためにけん引するときの速度は 30km/h 以下、けん引する距離は 30km 以内にしてください。

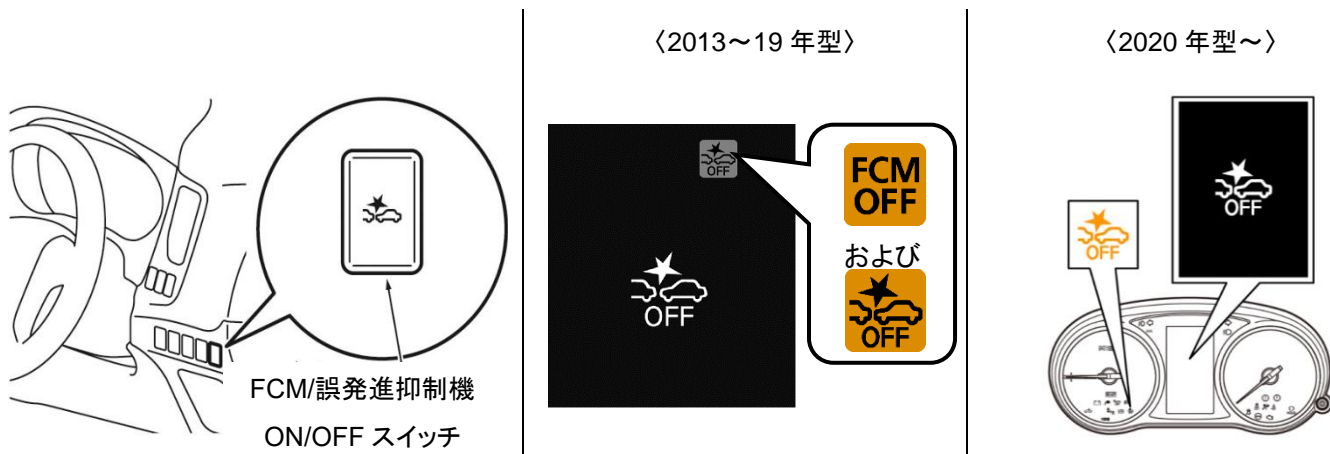
この速度、距離を超えると車両の故障の原因になります。

**・けん引時の速度: 30 km/h**      **・けん引時の距離: 30 km**



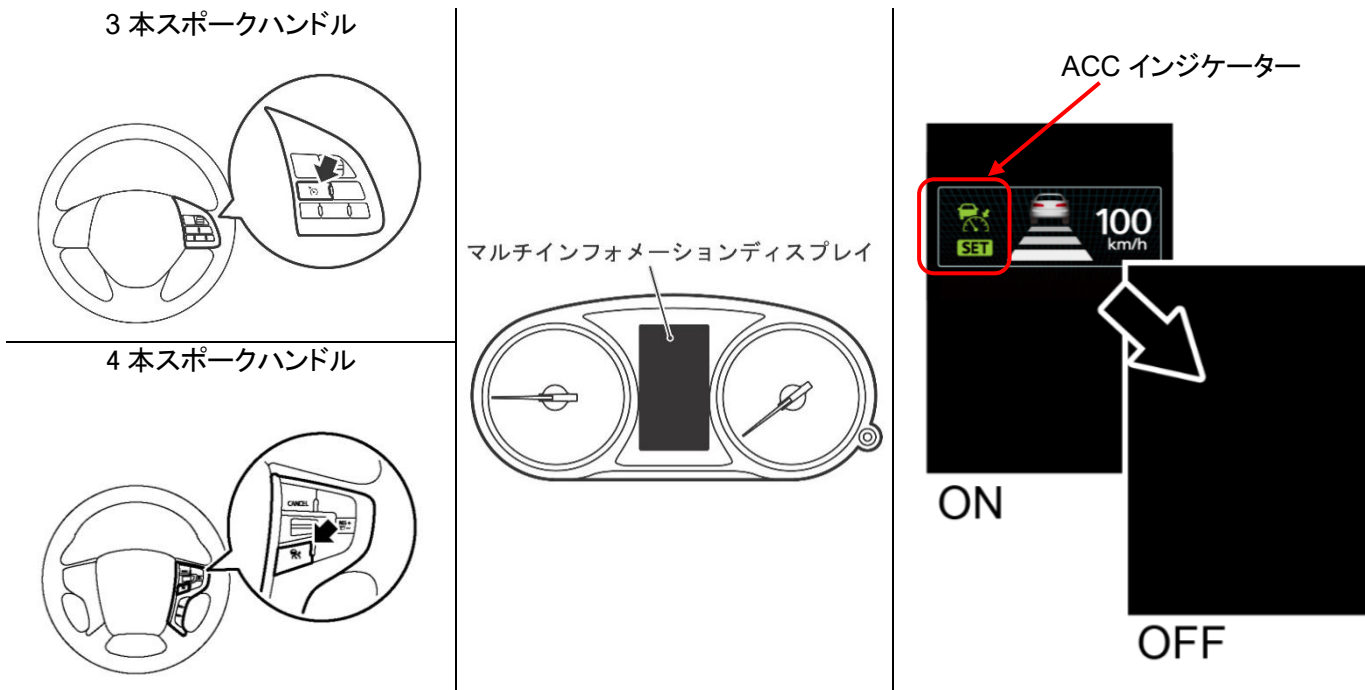
## FCM を OFF にする

パワースイッチの電源モードが ON の位置で、FCM/誤発進抑制機能 ON/OFF スイッチを押し続けると、システムの ON/OFF 状態が切り換えることができます。  
システムを OFF にします。  
システムを OFF にすると、メーター内の  インジケータが点灯します。



## レーダークルーズコントロールシステム(ACC)を OFF にする

ACC インジケータが点灯しているときは、レーダークルーズコントロールシステム(ACC)が ON 状態で ACC ON/OFF スイッチを押すとレーダークルーズコントロールシステム(ACC)は OFF します。



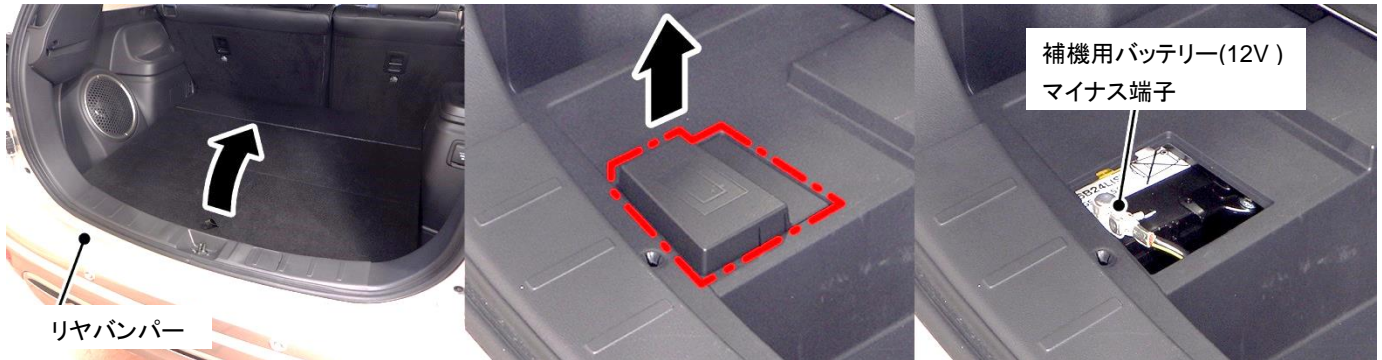
### 3. 電動パーキングブレーキ(EPB)の手動による解除方法

#### ⚠ 注意

- ・パワースイッチの電源モード OFF 後、1 分間は補機用バッテリー(12V)のマイナス端子を切り離さないこと。
- ・緊急の場合のみ、電動パーキングブレーキを手動で解除してください。



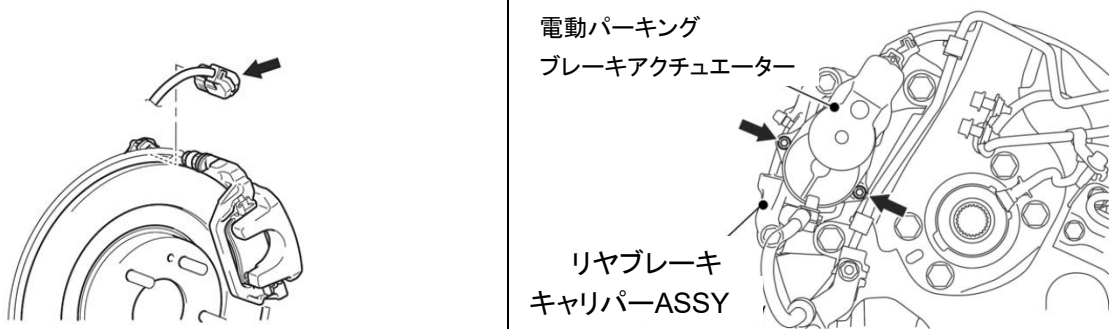
- 1) 車両を駐車し、電動パーキングスイッチを押してから、車両を輪止めで固定してください。
- 2) 補機用バッテリー(12V)からマイナス端子を取外してください。



#### ⚠ 注意

- ・コネクター周辺に泥や水等が付着している場合は清掃してから取り外してください。
- コネクター内に泥や水等が付着しないように注意してください。

- 3) 電動パーキングブレーキアクチュエーターとハーネスコネクターを切り離してください。
- 4) ボルト 2 本を取外し、リアブレーキキャリパーASSYから電動パーキングブレーキアクチュエーターを取外してください。



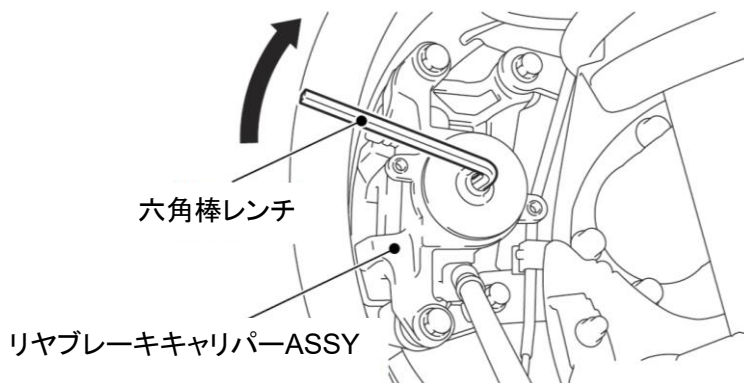
- 5) リアブレーキキャリパーASSYに六角棒レンチ(6 mm)を差込み、時計方向に 2 回転回してください。

#### ⚠ 警告

- ・解除と同時に車両が動き出すおそれがあるので、必ずブレーキペダルを踏みながら解除してください。

#### ⚠ 注意

- ・ブレーキフルードがあふれるおそれがあります。



## 9. 補足情報

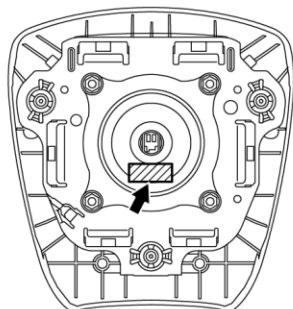
### 1. エアバッグ システム

構成図 (1-3 参照)

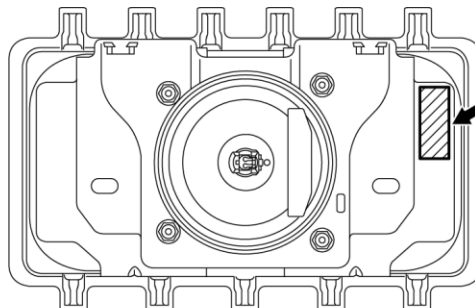
#### コーションラベル

SRS エアバッグ及びプリテンショナー付シートベルトの取扱いや、作業を行う上での注意すべき事項を示したラベル類を、図の位置に貼付けています。

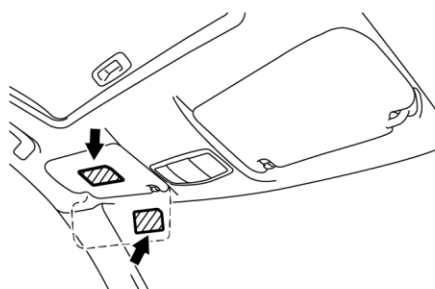
運転席エアバッグモジュール



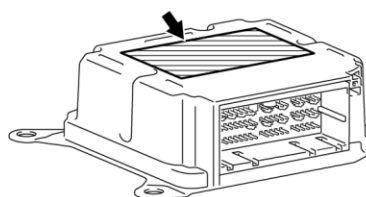
助手席エアバッグモジュール



サンバイザー



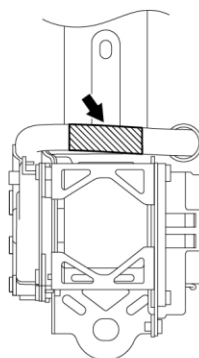
SRS-ECU



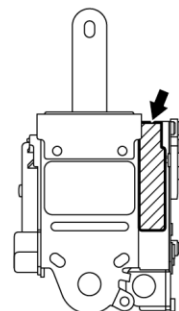
サイドエアバッグモジュール



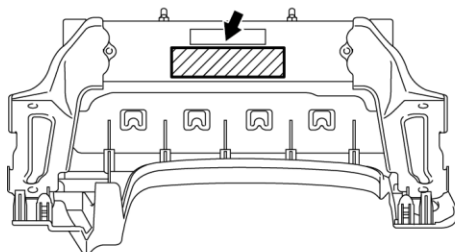
<フロントシート>



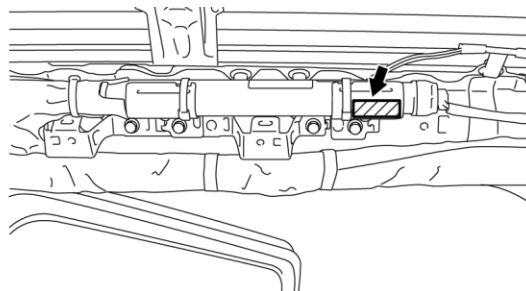
<セカンドシート>



運転席ニーエアバッグモジュール



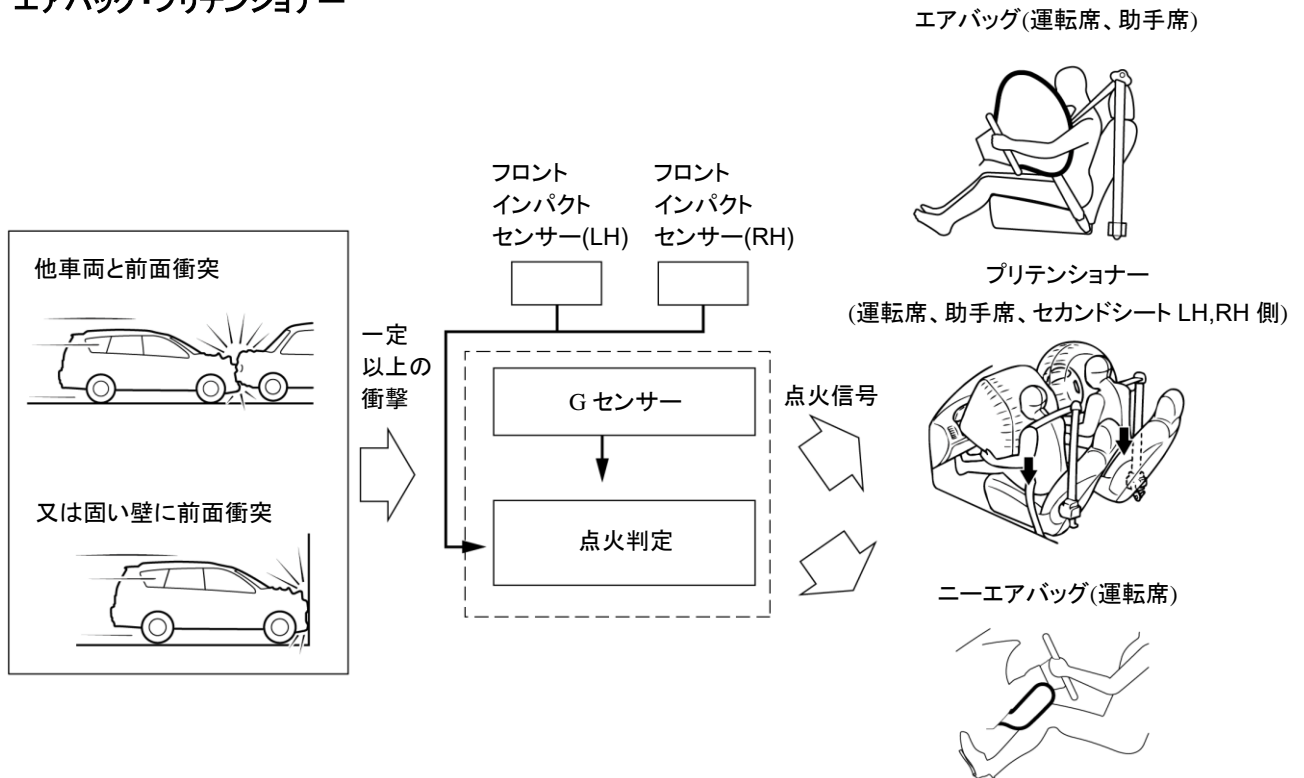
カーテンエアバッグモジュール





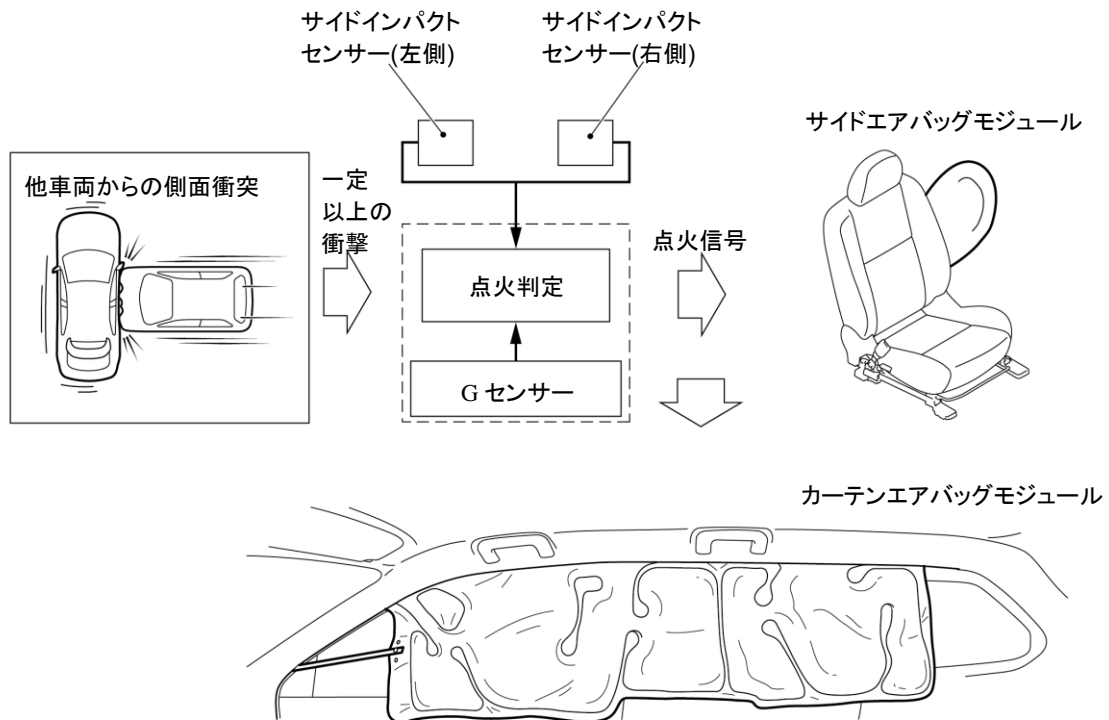
## 作動説明

### フロント エアバッグ・プリテンショナー



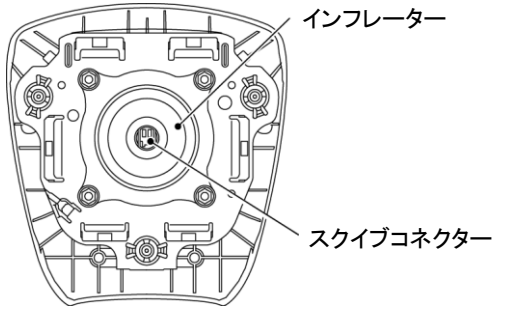
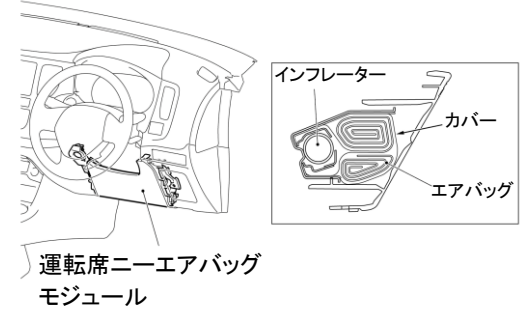
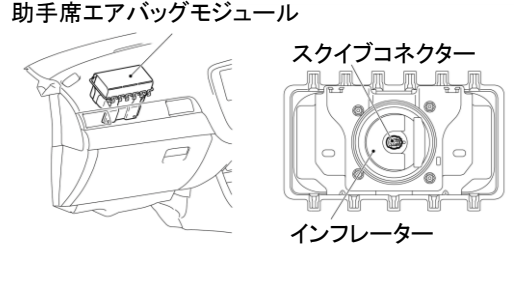

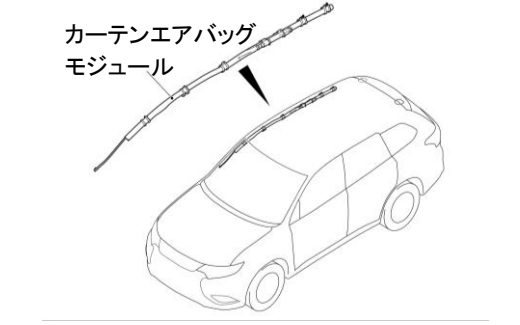
前面衝突時、エンジンルーム内のフロントインパクトセンサー及び SRS-ECU 内の G センサーが同時に一定以上の衝撃を感知した (ON した) 場合に、SRS-ECU から運転席、助手席エアバッグモジュール(スクイブ)、運転席、助手席、セカンドシート(LH、RH 側)プリテンショナー(スクイブ)及び運転席ニーエアバッグモジュール(スクイブ)に電流が流れ、エアバッグが展開するとともにプリテンショナーが作動します。

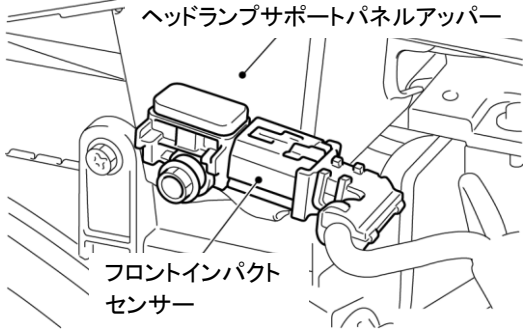

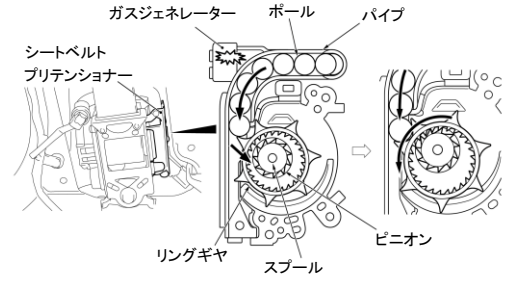
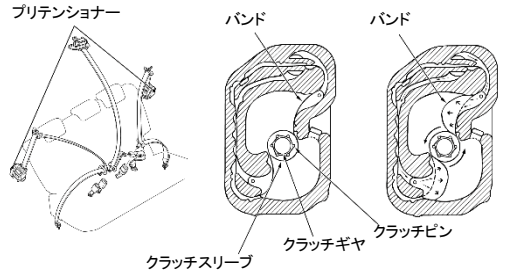
### SRS サイドエアバッグ・SRS カーテンエアバッグ



側面衝突時、センターピラーインナー下部に設置したサイドインパクトセンサーと SRS-ECU 内の G センサーが同時に一定以上の衝撃を感知した (ON した) 場合に、SRS-ECU から衝撃を受けた側のサイドエアバッグモジュール(スクイブ)及びカーテンエアバッグモジュール(スクイブ)に電流が流れ、エアバッグを展開させます。

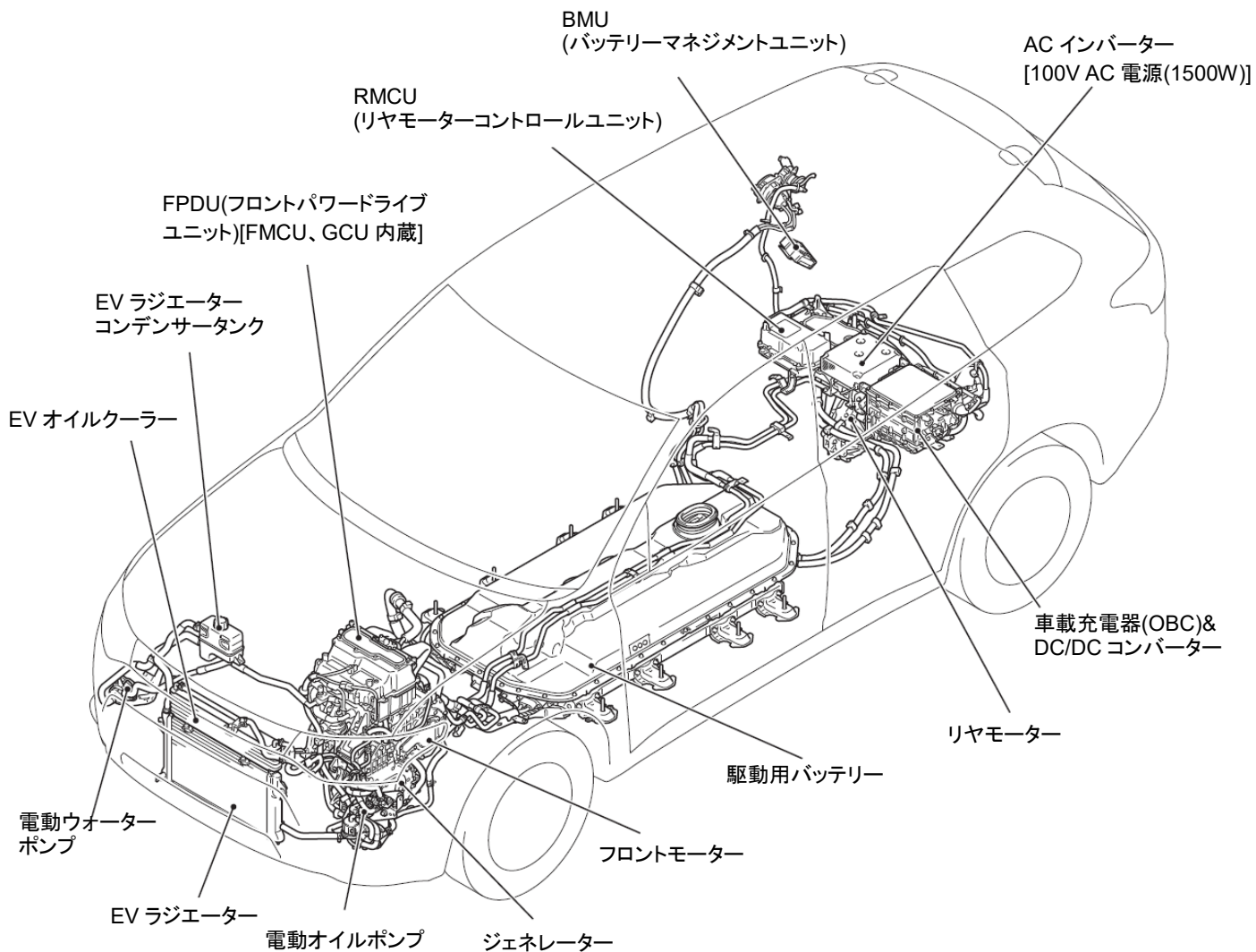
## 構造説明

<p>運転席エアバッグ モジュール</p>	 <p>インフレーター スクイブコネクター</p>	<p>運転席エアバッグモジュールのインフレーターは、エアバッグを展開させるために、スクイブコネクターを設けています。 エアバッグは、内側にゴムコーティングされたナイロン製の布でできており、インフレーターからのガスにより膨らみます。その後、乗員がエアバッグに当たるにつれて、後部の2個の排気口からガスを排出しながら収縮し、衝撃を緩和します。</p>
<p>運転席 ニーエアバッグ モジュール</p>	 <p>インフレーター カバー エアバッグ 運転席ニーエアバッグ モジュール</p>	<p>運転席ニーエアバッグモジュールは、カバー、エアバッグ、インフレーターとこれらの固定用部品で構成された部品で、ステアリングコラム下に取付けられ、運転席、助手席用のエアバッグと同様に、前面衝突時にエアバッグが展開し、運転席乗員の保護効果を高めます。</p>
<p>助手席エアバッグ モジュール</p>	 <p>助手席エアバッグモジュール スクイブコネクター インフレーター</p>	<p>助手席エアバッグモジュールのインフレーターは、エアバッグを展開させるために、スクイブコネクターを設けています。 エアバッグは、内側にゴムコーティングされたナイロン製の布でできており、インフレーターからのガスにより膨らみます。その後、乗員がエアバッグに当たるにつれて、後部の2個の排気口からガスを排出しながら収縮し、衝撃を緩和します。</p>
<p>サイドエアバッグ モジュール</p>	 <p>サイドエアバッグモジュール</p>	<p>サイドエアバッグモジュールは、エアバッグ、インフレーターとこれらの固定用部品で構成された部品で、運転席及び助手席のシートバックに取付けることにより、シート位置やリクライニング角度に関係なく、安定した保護性能が得られます。 エアバッグは正面衝突用のエアバッグと同様で、内側にゴムコーティングされたナイロン製の布でできており、折り畳んだ状態でカバーに収納されています。エアバッグの縫製部には、一部にガス排気口が設けてあり、展開時における乗員への衝撃が緩和されます。 カバーはポリエステル製の袋でできており、ミシン目が設けられています。エアバッグ展開時には、カバーがミシン目から破れ、エアバッグが外に飛び出して膨らみます。</p>
<p>カーテンエアバッグ モジュール</p>	 <p>カーテンエアバッグ モジュール</p>	<p>カーテンエアバッグモジュールは、エアバッグ、インフレーターとこれらの固定部品で構成され、ルーフサイド部(運転席及び助手席のフロントピラーから車体後部のリヤピラー)に取付けられています。 エアバッグは、内側にシリコンコーティングされたナイロン製の布でできており、小さく折り畳まれルーフサイド部に収納されています。エアバッグの縫製部には、一部にガス排気口が設けてあり、展開時における乗員への衝撃が緩和されます。</p>

<p>フロントインパクト センサー</p>	 <p>ヘッドランプサポートパネルアッパー</p> <p>フロントインパクト センサー</p>	<p>フロントインパクトセンサーは、エンジンルーム内のヘッドランプサポートパネルアッパーに取付けられており、フロントインパクトセンサー内には、アナログ G センサーが内蔵されています。</p> <p>フロントインパクトセンサーは、コード化した加速度データを SRS-ECU に送信し、その加速度データをもとに SRS-ECU がフロントエアバッグの展開を判断し、各スクイブに電流を流します。</p> <p>SRS-ECU はフロントインパクトセンサーの内部構成部品の故障診断を行い、故障発生時には故障コードを出力します。</p>
<p>サイドインパクト センサー</p>	 <p>サイドインパクトセンサー</p> <p>フロントシートベルト</p>	<p>サイドインパクトセンサーは、左右のセンターピラー下部に取付けられており、サイドインパクトセンサー内には、アナログ G センサーが内蔵されています。</p> <p>サイドインパクトセンサーは、コード化した加速度データを SRS-ECU に送信し、その加速度データをもとに SRS-ECU がサイドエアバッグ及びカーテンエアバッグの展開を判断し、各スクイブに電流を流します。</p> <p>SRS-ECU はサイドインパクトセンサーの内部構成部品の故障診断を行い、故障発生時には故障コードを出力します。</p>
<p>プリテンショナー付 シートベルト</p>	<p>&lt;フロントシート&gt;</p>  <p>ガスジェネレーター</p> <p>ボール</p> <p>パイプ</p> <p>シートベルト プリテンショナー</p> <p>リングギヤ</p> <p>スプール</p> <p>ピニオン</p> <p>&lt;セカンドシート&gt;</p>  <p>プリテンショナー</p> <p>バンド</p> <p>バンド</p> <p>クラッチスリーブ</p> <p>クラッチギヤ</p> <p>クラッチピン</p>	<p>プリテンショナー付シートベルトは、前面衝突時にシートベルトを自動的に巻き取り、乗員の前方移動量を低減します。</p> <p>運転席及び助手席シートベルトプリテンショナーは、SRS-ECU からの電流が流れることによりガスジェネレーターを着火させ、ガスを発生させます。ガス圧によりボールがパイプ内を移動し、リングギヤの突起部分に当たりリングギヤが押込まれ、ピニオンと連結します。リングギヤの回転により、ピニオンはスプールをベルト巻き込み方向へ回転させ、ベルトを巻き取ります。</p> <p>セカンドシートプリテンショナーは、SRS-ECU からの電流が流れることにより点火用ヒーターが発熱、火薬が点火しガスが発生します。ガス圧によりバンドが押し広げられ、クラッチスリーブに巻き付けられているバンドが引出されることにより、クラッチスリーブが回転する。クラッチスリーブが回転するとクラッチピンがクラッチギヤに噛み込み、シートベルトが巻き取られます。</p>

## 2.駆動用バッテリー

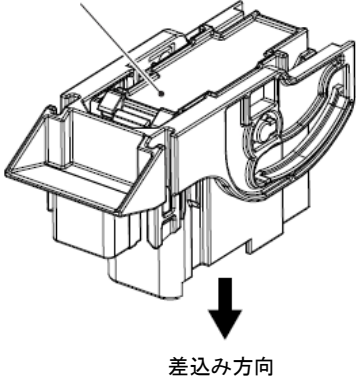
### 構成図



### 構造説明

<p>駆動用バッテリー</p>		<p>駆動用バッテリーには、小型、軽量でエネルギー密度の高いリチウムイオン電池を採用しています。この駆動用バッテリーで、モーター(パワーユニット)の駆動および、エアコンの作動をさせています。</p> <p>駆動用バッテリーは、耐水性、耐熱性、耐振性、耐塵性に優れた堅牢な金属ケースに納められており、床下に配置されています。電池部分は、8個の電池セルを直列に接続したモジュールが10個の構成で、合計80個の電池セルが直列に接続されています。これにより、駆動用バッテリーは、300Vの高電圧を発生させています。充電中のドライブバッテリーの最大電圧容量は、336Vです。</p>
-----------------	--	--



<p>サービスプラグ</p>	<p>サービスプラグ</p>  <p>差込み方向</p>	<p>サービスプラグは、後部中央座席の足元に取り付けられています。サービスプラグは、高電圧部品の点検・整備を行う前に取外すことで、高電圧回路を遮断し作業安全性を確保しています。また、サービスプラグのレバー部には接点式のスイッチが取り付けられており、サービスプラグの接続状態検知に使用しております。</p>
----------------	---	--

### <特徴>

- ・リチウムイオン電池の特性上、充電前にバッテリー残量を使い切る必要はありません。
- ・駆動用バッテリーは、使用年月や使用条件により徐々に性能が低下します。
- ・駆動用バッテリーは、外気温により性能が変化することがあります。特に低温時は、常温時に比べて航続可能距離が短くなり、充電時間が長くなります。
- ・極端に高温、低温な場所で車両を保管すると電池性能が低下することがあります。
- ・駆動用バッテリーは、使用しなくても徐々に放電しバッテリー残量が減ります。

### <取扱いの注意点>

- ・長期間車両を使用しない場合は、3ヶ月ごとに駆動用バッテリー残量計の目盛を確認して下さい。  
目盛が0であれば、目盛が表示されるまで充電するか、もしくはパワースイッチを READY にして自動で始動したエンジンが停止するのを待ってからパワースイッチを OFF にして下さい。
- ・駆動用バッテリーの回収を行っております。廃車にするときは必ず三菱自動車販売会社に相談してください。

### 3. 駆動用バッテリーの放電処置

車両水没時、駆動用バッテリーへの浸水の可能性がある場合は以下の要領で放電処置を行ってください。

#### ⚠ 警告

- ・指示を守らないと、感電などの重大な人身事故を招くおそれがあります。
- ・駆動用バッテリーから電解液が漏れ出した場合、酸性の蒸気が発生する危険があります。
- ・海水(塩分を含んだ水)は絶対に注入しないでください。塩分による急激な電気分解で大量の水素が発生し、引火の可能性があります。
- ・注水した後、約 84 時間は駆動用バッテリー内で水が電気分解され水素が発生します。引火の可能性があるため車両保管時は、換気の良い屋外に車両を保管することと、車室内に水素が充満する可能性があるため、窓やドアを開放してください。
- ・放電処置が完了するまでは発煙及び発火するおそれがありますので注意してください。
- ・駆動用バッテリーから排出された水は産業廃棄物として自治体などの規則に従い適切に処理をしてください。なお、排水は P(リン)、Li(リチウム)などの金属を微量(1~数 ppm)に含む水溶液のため、産業廃棄物処理業者に伝え確実な処理を依頼してください。

### 注水による駆動用バッテリーの放電処置方法

#### ⚠ 注意

- ・パワースイッチの電源モード OFF 後、1 分間は補機用バッテリー(12V)のマイナス端子を切り離さないこと。
- ・補機用バッテリー(12V)のマイナス端子を切り離してから 5 分間はサービスプラグを抜かないこと。



- 1) 換気の良い野外に車両を移動してください。
- 2) パワースイッチの電源モードを OFF にし、補機用バッテリー(12V)のマイナス端子を切り離してください。
- 3) 2席中央足元のサービスリッドカバーを外してください。(クリップ×4個)
- 4) 10mm のスパナなどを使用しサービスリッドを外してください。(ナット×4個)

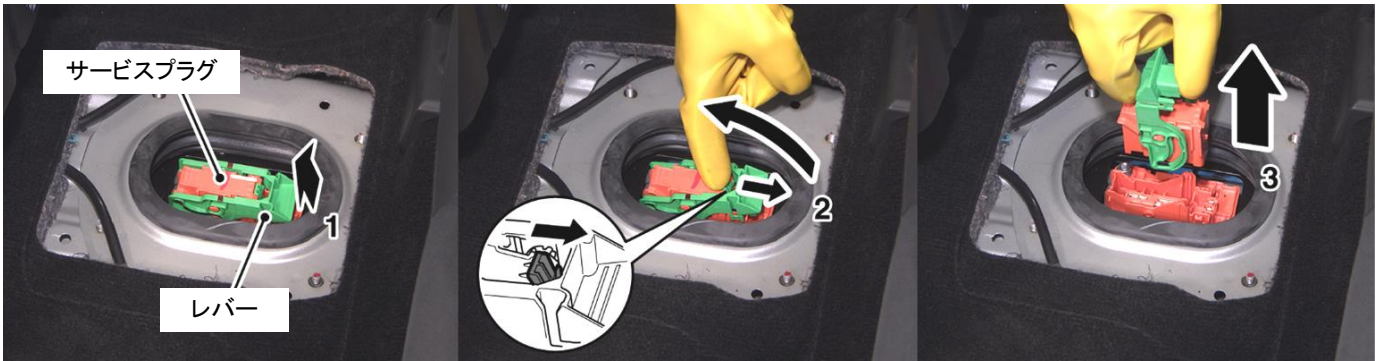


**⚠ 警告**

サービスプラグを抜き取る際は、必ず絶縁保護具を着用してください。

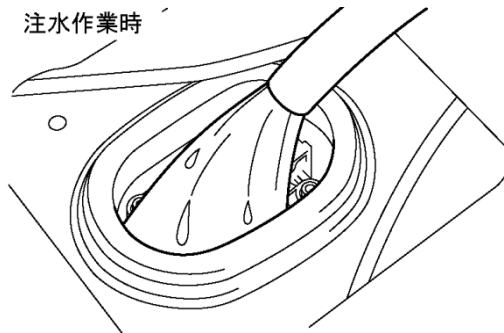


- 5) 絶縁保護具の着用を確認し、サービスプラグを取外してください。
  1. サービスプラグのレバーを止まるまで起こしてください。
  2. サービスプラグのレバーロックを解除しながら、サービスプラグのレバーを更に起こしてください。
  3. サービスプラグを上方向に引き抜いて取外してください。



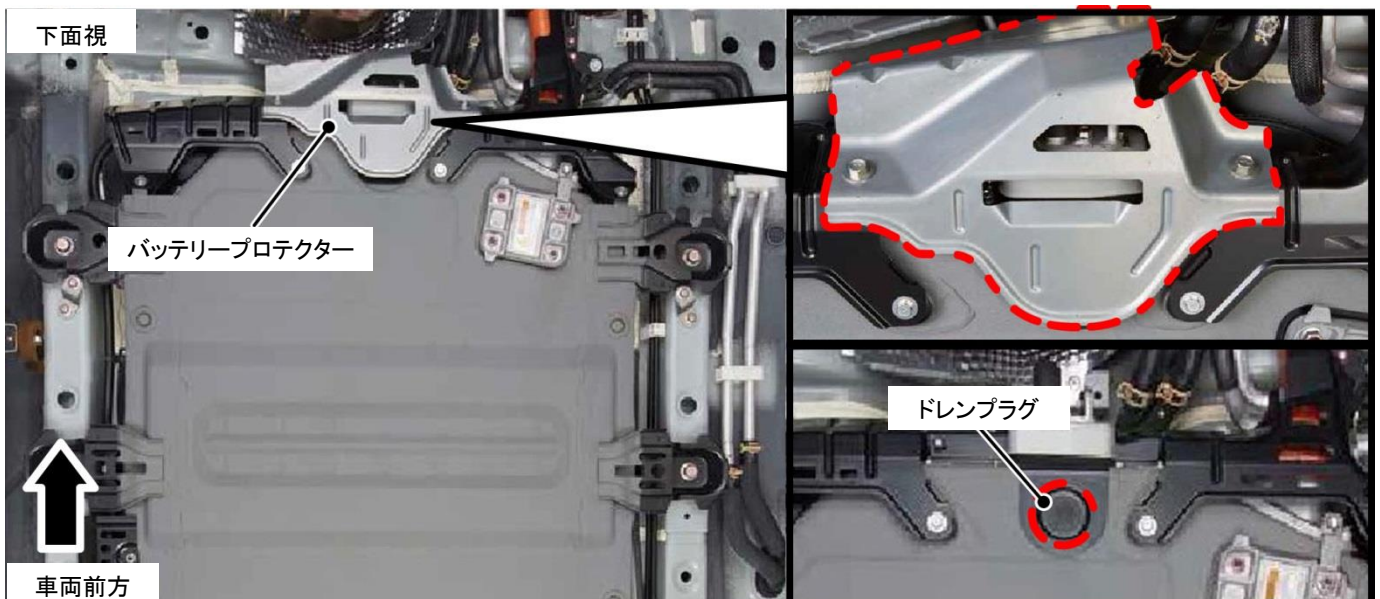
- 6) 車両下に注水した水を回収するための、大きな目なトレイを置いてください。(バッテリーパック前方)
- 7) サービスリッドの開口部から、駆動用バッテリー内に水(水道水、井戸水、池の水等の塩分を含まないもの)を満水まで入れてください。
- 8) 駆動用バッテリー内が満水になったら、満水状態が維持できる水量に調整し、30分間流し続け内部の不純物を排出してください。

注水作業時



注水した水は駆動用バッテリー下面のドレンプラグから排水されるため、容器で回収してください。

(下図のようにドレンプラグはバッテリープロテクターに覆われているため直視できません)



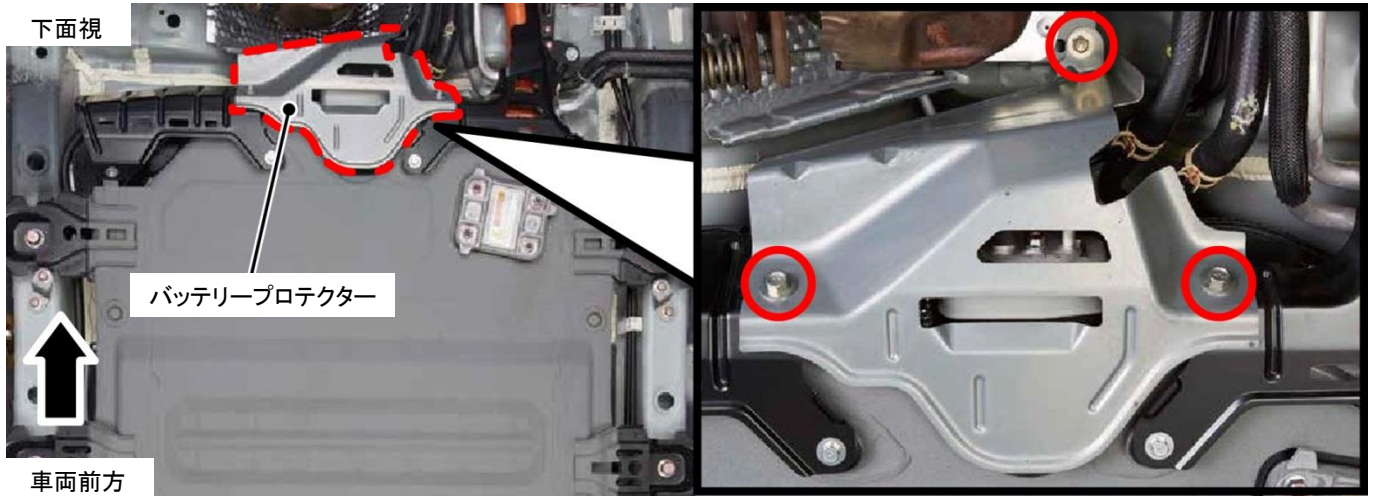


**⚠ 注意**

駆動用バッテリーから排出された水は産業廃棄物として自治体などの規則に従い適切に処理してください。

9) 注水作業後、ドレンプラグからの排水が終わるまで待ってください。(20分程度)

10) 車両をリフトアップし、レンチ(12mm)などを使用して、バッテリープロテクターを取外してください。



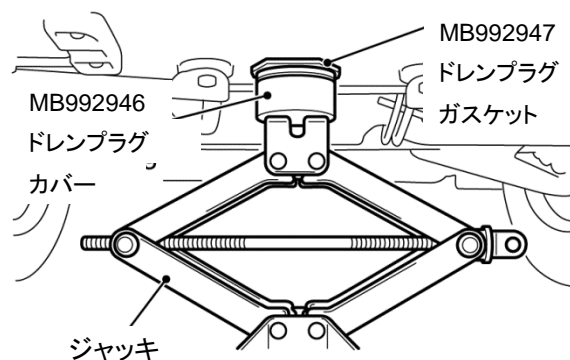
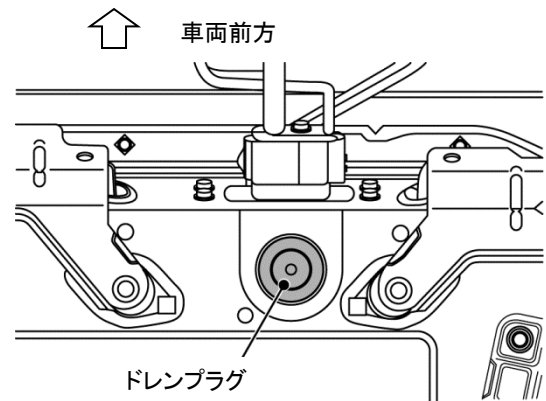
11) ドレンプラグ下面に、MB992947:ドレンプラグガスケット、MB992946:ドレンプラグカバーの順にセットし、ジャッキなどを使用して固定してください。



MB992946  
ドレンプラグカバー



MB992947  
ドレンプラグガスケット



参考) ・ MB992947:ドレンプラグガスケット (シリコンゴムシート: 70 x 70 x 3 mm 程度)

・ MB992946:ドレンプラグカバー(シリコンゴムシートの受け台)

12) 開口部から、駆動用バッテリー内に水(水道水、井戸水、池の水等の塩分を含まないもの)をあふれる手前まで注入してください。

13) 水を注入した後、満水状態を保ちながら約 84 時間(3.5 日)以上放置する。その間はバッテリー内で水が電気分解され水素が発生するため、ドア・テールゲートをすべて開け換気の良い屋外に車両を保管してください。

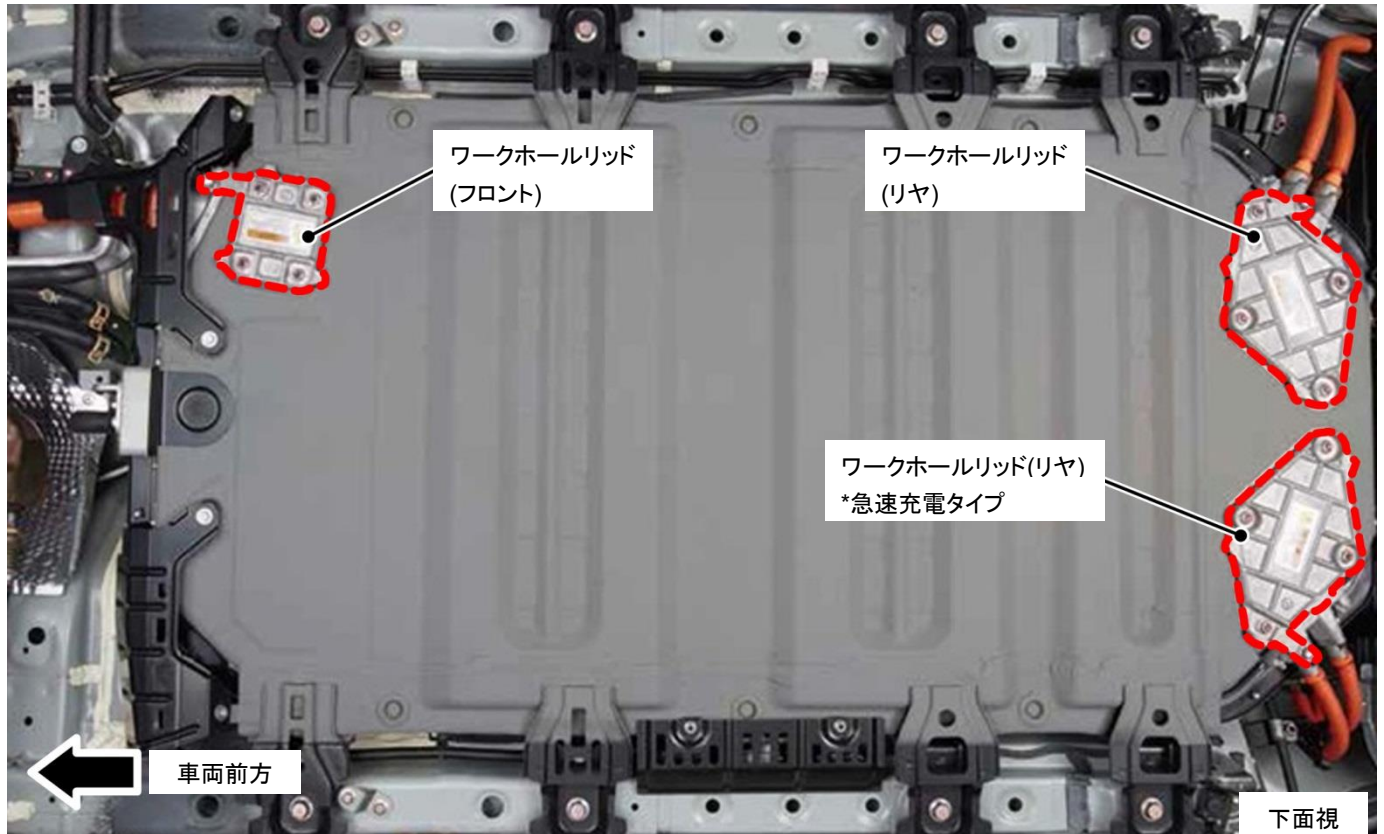


## 水の抜き方

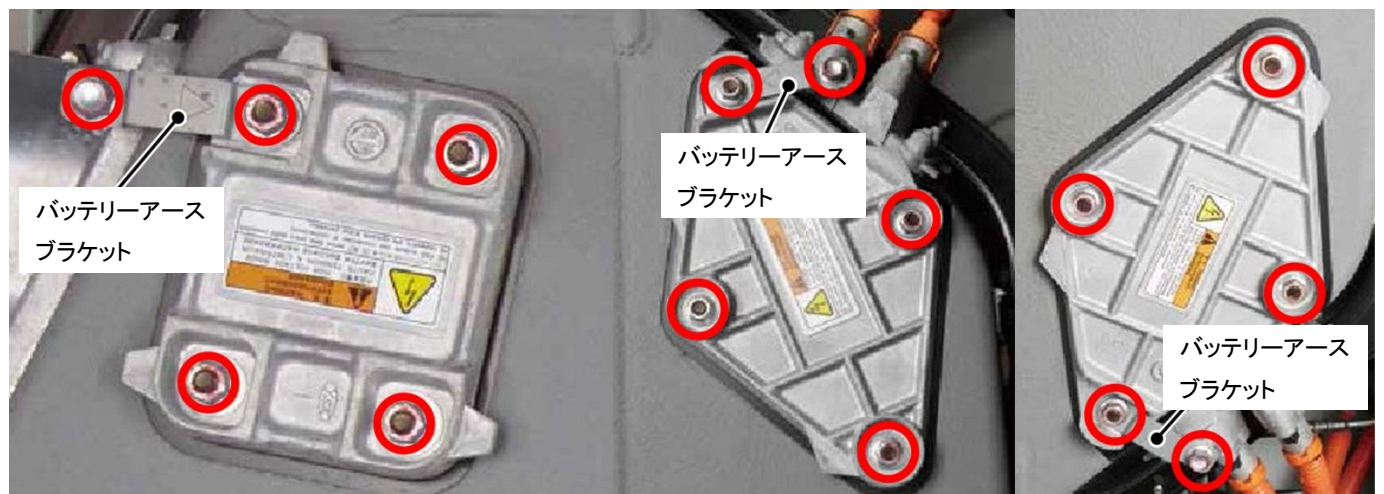
ドレンプラグ下面に設置した特殊工具を取外し、ドレンプラグからの排水が終わるまで待ってください。  
水を排出する際はドレンプラグ下に容器をセットし、排出する水を回収してください。

## 残った水の抜き方

- 1) 駆動用バッテリー下部のワークホールリッドをレンチ(12mm)などを使用して取外し、バッテリー内部に残っている水を排水してください。



- 2) バッテリーアースブラケットを取外してください。
- 3) ワークホールリッドを取外してください。



### ⚠ 注意

駆動用バッテリーから排出された水は産業廃棄物として自治体などの規則に従い適切に処理してください。  
なお、排水はP、Liなどの金属を微量(1~数ppm)に含む水溶液のため、産業廃棄物処理業者に伝え確実な処理を依頼してください。

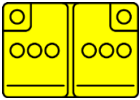

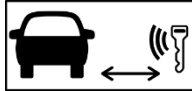



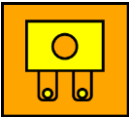







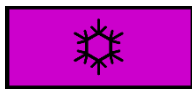








作業者:

危険！ 触るな！  
高電圧作業中！！

高電圧作業中！！  
危険！ 触るな！

作業者:

## 10.使用ピクトグラムの説明

	補機用バッテリー (12V)		SRS ユニット		キーレス距離
	パワースイッチ		エアバッグ インフレーター		シートベルト プリテンショナー
	高電圧ヒューズの 無効		エアバッグ		高電圧、感電注意
	高電圧ケーブル		シート前後調整		低温注意
	高電圧部品		シート高さ調整		エアコン部品
	サービスプラグ		ハンドル上下調整		ジャッキ支持位置
	ボンネット開口時		テールゲート開口時		フューエルタンク
	ABC 粉末消火器を 使用し消火		水を使用し消火		人体への有害性あり
	可燃性/ 引火性ガスの 発生あり		爆発の危険性あり		金属腐食、皮膚腐食、 眼に対する 重篤な損傷性あり

